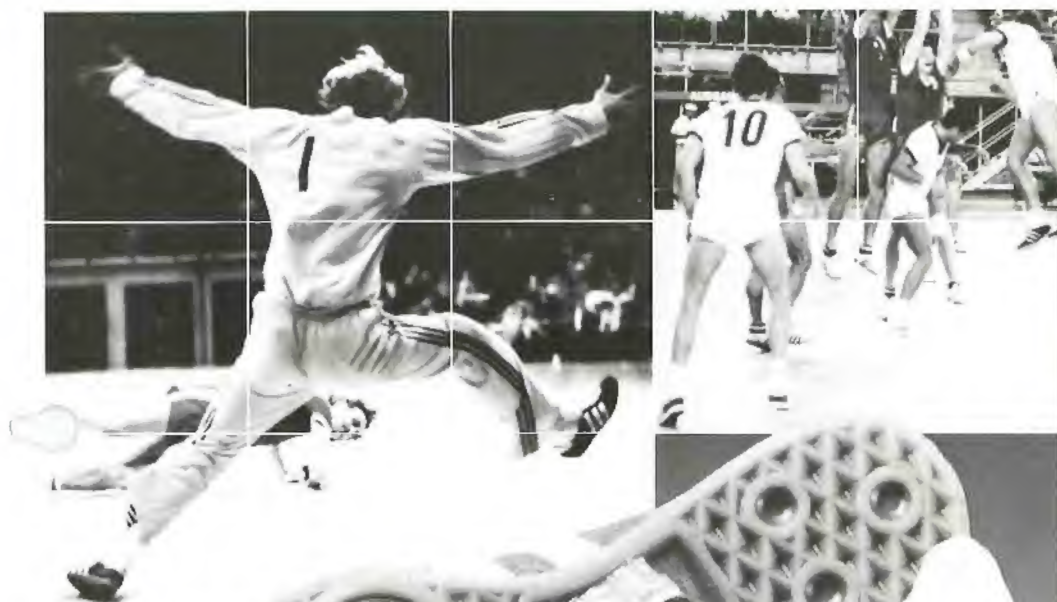
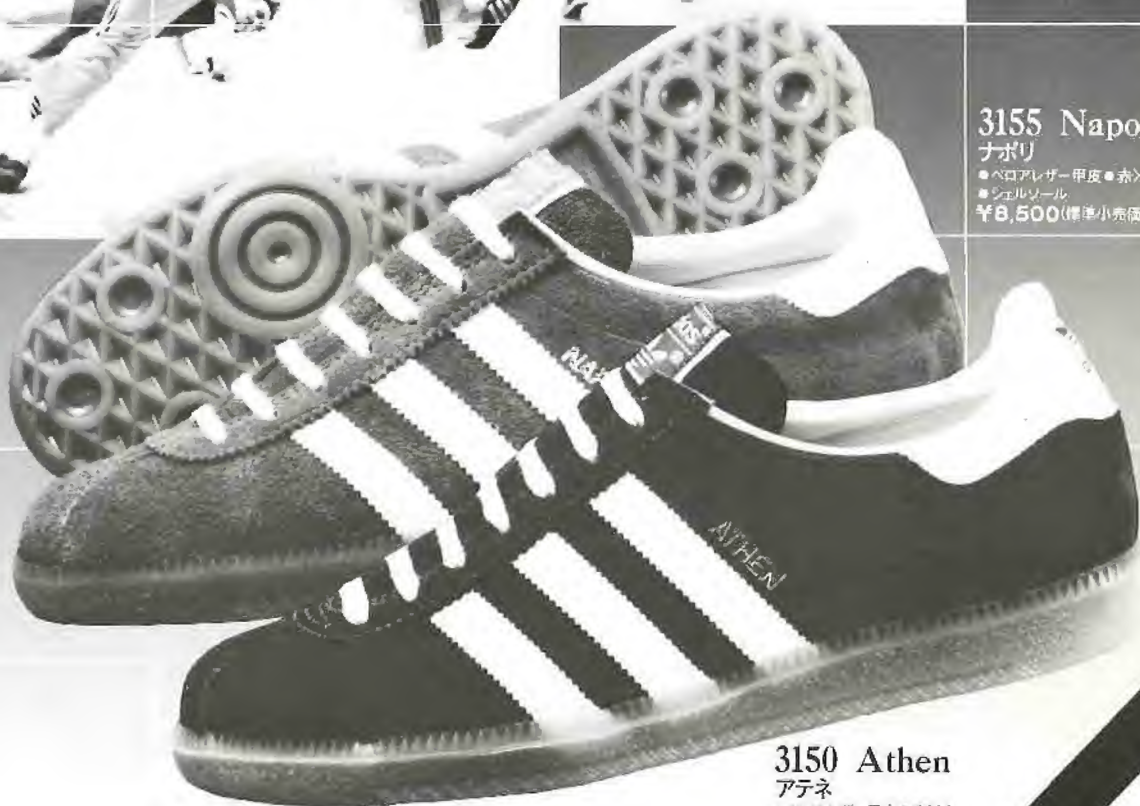
# アディダスで正しいテクニックを身につけたい。






**3155 Napoli**
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

**3150 Athen**
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥8,500(標準小売価格)

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

adidas®
The science of sport.

The all-sports people


●お求めはadidas特約店で

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2−5−3 ☎06・305−1431 〒130 東京都墨田区緑2−12−3 ☎03・634−1411

# オリンピック予選陣容決まる

## 男子　アジア選手権とほぼ同一で

11月17日から台湾で始まるモスクワ・オリンピックへの関門、アジア予選に出場の全日本男子代表チームが決まった――。日本協会は、10月27日の常務理事会（東京）で、アジア予選に臨む日本協会の最終的な姿勢を協議、本誌既報のとおり、11月上旬の第2回アジア選手権（南京）に参加するメンバーを中心にしてアジア予選に出場することを決定、強化部名簿を承認、10月30日体協記者クラブで発表した。メンバーは、コーチングスタッフの要望で、アジア予選に出場する選手のうち、柳川実と大畑孝広（GK）は、アジア選手権には滞同せず、また、アジア選手権参加の岡部大（GK）は、アジア予選には行かない。

また、両大会の遠征チーム名誉団長として林達夫副会長（節夫人を同伴）が決定、アジア選手権レフェリーは、岡前義春国際公認審判員（日本協会理事）に決まり、チームと同行する。

なお、女子のアジア予選メンバーは、11月10日すぎに発表される予定。

今春来、いろいろな意見のとびかっていた「代表チーム」が、ようやく発表された。陣容は、本誌既報のとおり、アジア選手権（11月3日～11日、南京）とアジア予選（11月17日～23日・高雄、台北）とも、ほぼ同一メンバーである。

第2回アジア選手権及び
オリンピックアジア予選
日本男子代表チーム

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ・団　長 | 荒川　清美 | （日本協会理事長） | | |
| ・監　督 | 竹野　奉昭 | （日本協会強化委員） | | |
| ・コーチ | 東　　嘉仲 | （日本協会強化コーチ群） | | |
| ・GK | 福井　秀人 | (27才・湧永薬品) | 180cm | ㉑ |
| | 井藤　英忠 | (20・日体大) | 185 | ⑤ |
| ・FP | 津川　　昭 | (28・湧永薬品) | 180 | ㉗ |
| | □穂積　豊彦 | (27・湧永薬品) | 180 | ㊵ |
| | 山本　伸二 | (26・湧永薬品) | 176 | ⑦ |
| | 生駒　靖夫 | (24・湧永薬品) | 185 | ② |
| | 池ノ上孝司 | (24・湧永薬品) | 185 | ⑰ |
| | 志賀　良弘 | (23・湧永薬品) | 187 | ⑭ |
| | 大原　真造 | (27・大同特殊鋼) | 175 | ③ |
| | □蒲生　晴明 | (25・大同特殊鋼) | 192 | (64) |
| | 中本　満明 | (25・大同特殊鋼) | 184 | ㉗ |
| | 斉藤将一郎 | (26・湧沢ク) | 187 | ㉑ |
| | 斉藤　幸司 | (25・大崎電気) | 174 | ㉜ |
| | 関　　健三 | (24・三陽商会) | 180 | ⑥ |
| ～アジア選手権のみ参加～ | | | | |
| ・GK | 岡部　　大 | (24・大崎電気) | 182 | ① |
| ～アジア予選のみ参加～ | | | | |
| ・GK | 大畑　孝広 | (23・本田技研鈴鹿) | 183 | ② |
| ・FP | 柳川　　実 | (25・大同特殊鋼) | 175 | ㊶ |
| ・主務 | 斉藤　　稔 | (山梨協会理事) | | |

・□印はモントリオールオリンピック代表選手
・右欄○内数字は公式国際試合出場回数

わずか一カ月の間に、二つのタイトル・マッチを同一メンバーで乗り切ることには、この時点でも不安を抱く関係者がいないわけではないようだが、団長をつとめることになった荒川清美理事長は、今夏以降「国際舞台への中国復帰が、確定的となった以上、アジア選手権もベストメンバーで戦うこと」を力説、当初の〝二つの全日本案〟を引っこめた。

しかし、選手のコンディションなどを考えれば、待機メンバーの必要性もあり、キャリア豊かな柳川（大同）と、新進GK大畑（本田技）を残すことになった。

竹野奉昭監督は「アジア選手権では、メンバーのひんぱんな入れ替えを行ない、津川、蒲生、大原らの〝温存〟もあり得る」としている。

日本協会の得ている情報では、アジア選手権に、韓国の参加は、まずムリとみられており、アジア予選が〝再戦の舞台〟になることは、まず、無さそうだが、コーチングスタッフが、慎重にことを構えている点は、今春来、変わっていない。

なお、女子については、日本リーグ終了直後から、最終合宿に入っており、池田鉄哉監督の口ぶりではメンバーの正式発表は、出発ギリギリの11月12、13日ごろになりそうだ。（注・女子はアジア選手権は行われない）

なお、女子のコーチングスタッフは、監督・池田鉄哉、コーチ・白神邦雄で、マネジャーとして伊藤宏幸コーチが参加する。

選手団のスケジュールは、アジア選手権出場の男子は、10月31日出発、11月13日帰国、翌14日午後成田空港で女子と合流して、アジア予選に向かう。帰国は11月25日午後8時50分成田国際空港着の予定。

**五輪代表は再選考**　日本協会・荒川理事長は、11月のオリンピック予選(男子)で、日本が代表権を獲得した場合、オリンピック選手は、ミュンヘン、モントリオール大会時同よう、来春までに再選考することを、明きらかにした。JOCの派遣枠も未定。

「ハンドボール」
54年11月号(第180号)目次



【表紙写真】宮崎国体少年男子で、氷見高(攻撃)はみごとな試合ぶりで3連勝の偉業を遂げた（対中大付高戦・10月18日）
【スポーツイベント社提供】

### オリンピック・アジア予選

# 男子確実、互角の女子

## 11月17日〜23日・台湾

来年にせまったモスクワ・オリンピックのアジア大陸予選がいよいよ行われる。

11月17日から23日まで、台湾の高雄、台北両市で、男女とも日本、韓国、台湾の3カ国2回総当り。男子は、勝者が、そのままモスクワ行の切符を握るが、女子は、アジア予選のあと来年3月、コンゴでコンゴ(アフリカ大陸代表)アメリカ大陸代表（来年1月決定）と「3大陸代表」を争い、それに勝たねばならない

### 日本の強敵は「気のゆるみ」

**◆男子**　日本のミュンヘン以来3回連続オリンピック出場が、太鼓判だ。

日本に死角があるとすれば「アジア選手権（次頁参照）につづいての疲れ」「油断」の二点だ。

日本協会は、本誌1頁所報のとおり、両大会を同一チームで乗り切ることにした。

両大会の間隔は、わずか一週間しかも、その間には中国—東京（一泊）—台湾という移動も含まれる。

主力が故障しないか、コンディションの狂いがおとし穴になりはしないか、といった第三者の心配を、日本協会が、はねつけているのは、現在の韓国、台湾の戦力なら、少々のことがあっても、日本が敗れることはない、といった自信によるものだ。

「日本の強さ」については、対抗を自負する韓国協会関係者も、認めている。

日本としては、モスクワ行きが決まっているようなもの、だが、スポーツの世界では「自信と過信は紙一重」である。

さらに、ここへ来て、韓国は、第2回アジア選手権への参加を強く望みながら、果たされぬという事情が加っている。

アジア選手権の勝者が、日本であればあるほど、韓国は、アジア予選に勝って「アジア・ナンバーワン」を誇示したいだろう。

その相手が、日本となれば、いっそう勝利への闘志、意欲をかきたてるにちがいない。

竹野奉昭・全日本男子監督は「戦術、技術、体力など、日本は韓国より、はるかに上廻っている。ただ、気力、精神力になると五分々々。このことを肝に銘じさせて、台湾へ乗りこむつもりだ」とアジア選手権出発直前に語っている。

今回に限っては、「気力」が、速攻よりも、スカイプレーよりも〝最重要武器〟であろう。

### 〝会場変更〟どう活かす

**◆女子**　〝雪じょく戦〟の時がついに来た。

昨年5月、世界選手権アジア予選（韓国）で、韓国に敗れて以来（第1戦13—17、第2戦17—19、=本誌第166号参照)、全日本女子は、「韓国」を追いつづけた。

いちどは、敗戦のショックもあって〝引退〟を口にした主力選手たちも、再び起ちあがった。

かつてない強化合宿の連続、そのたびに、コーチ陣からとぶ叱声は「そんなことでは韓国に勝てない」であった。

それほどまでにして、照準をあてつづけてきた〝その日〟が、ついに来たのである。

ズバリ、日本は勝てるか？。少なくとも、世界選手権予選時よりは、〝好条件〟が揃っている。

コーチングスタッフの一人は「会場が、韓国から台湾に替わったこと」をあげる。

当初、アジア予選の開催地は、韓国と伝えられ、日本のコーチ陣は「両国の戦力が五分々々では勝てない。最低六分×四分、出来れば七分×三分にしなければ」といっていた。

現実には、これは難しい。五・五分×四・五分が、やっとではなかったろうか。

それが、台湾に移されて「五分々々」の線が浮上した。

主力選手の一人も「あのニュースで、ずいぶん気が楽になった」という。

もう一つは、チームのまとまりが、強固になったことだ。

男子に比べ、女子のチームに「危機感を植えつけるのは難事業」といわれるが、それが、選手サイドから燃えあがってきたのである。

「韓国に勝ちたい、負けの借りを返したい」「オリンピックに出たい」「日本の全女子プレイヤーのために……」。さまざまな気持が交錯して〝危機感〟が、出来あがった。

そうした気持ちの開花が、9月のヒポバンク（オーストリア）戦でみられた。雪じょくの期待は、充分といえよう。

しかし、一方で、韓国の強さを認めるみかたも、相変らずだ。

韓国スポーツ界全体のバックボーンともいえる「日本を追いこせ」を果たした女子チームが、次に望むのは「女王の座保持」である。

昨冬の世界選手権初出場で、選手に備った自信は大きなものがあろうし、日本をしのぐ強化合宿の連続でいっそう、その技とスピードに磨きがかかった、とみていい。

日韓対決の前、韓国は台湾戦をこなす。この日程編成は、韓国有利ではないかという。

また、韓国情報が、相変らず一片たりとも伝わらず、風の便りでは、新進大型アタッカーの加入が聞こえるなど、〝神経戦〟の強さも、見逃せない。心・技・体まさに五分と五分、日韓対決の帰すうは、両国関係者愛好者のみならず全世界注目の的である。

**オリンピックアジア大陸予選**

・11月17日（土）
　日本——台湾①
　(女)韓国——台湾①
・18日（日）
　台湾——韓国①
　(女)日本——韓国①
・19日（月）
　日本——韓国①
　(女)日本——台湾①
〜以上高雄市〜
・20日（火）
　移動日
・21日（水）
　日本——台湾②
　(女)台湾——韓国②
・22日（木）
　韓国——台湾②
　(女)日本——韓国②
・23日（金）
　日本——韓国②
　(女)日本——台湾②
〜以上台北市〜

第2回アジア選手権

# 日本×中国の決勝動かず

11月3～11日・南京

第2回アジア選手権（男子のみ）は、11月3日から11日まで中国・南京市の五台山体育館で行われる。

大会直前のいまになっても参加国数と、競技法式が明らかにされず、10月31日成田を飛び立った全日本も、「すべては着いてから…」という割り切りかた(?)だが、できるだけの情報を集めて、大会の話題を探ってみた。

## 注目の北朝鮮初参加

まず、肝心の参加国と競技法式だが、9月末、クウェートで開かれたAHF（アジア・ハンドボール連盟）理事会では、日本、中国クウェート、インド、朝鮮民主々義人民共和国(北朝鮮)、イラク、アラブ首長国連邦（エミレート）の七カ国と伝えられたようだが、その後の外電では、パレスチナも加えられ、八カ国になっている。

また、AHF理事会では、バーレーン、カタール、パキスタンの新加盟が明きらかとなり、これらの国の〃追加〃も予想されるが、いまのところ、5～8カ国による1回総当りとみておいて間違いあるまい。

注目されるのは、朝鮮民主々義人民共和国のエントリーだ。

同国で、ハンドボールが行われているのは確実だが、これまで一度もベールの向こう側から姿を現していなかった。

それが、突然、今大会への出場を打ち出したのは「実力によほど自信があってのこと」（東嘉伸・全日本コーチ）か、「中国との友好から」（荒川清美理事長）であろう。

ただ、「幕を開けてみなくては判らない」（竹野奉昭・全日本監督）と、その参加に？をつけるムキが、かなりあるのは確かだ。

しかし、いずれは、国際舞台に登場してくる国であろうし、サッカーやバレーボールで示すボールゲームセンスは、要注意といえる

## 前回は日本26－19中国

さて、注目の優勝争いだが、これは、日本×中国に、間違いない。

アジアのなかで、いま、この両国に対抗できるとすれば、韓国以外になく、その韓国が「どうも招かれていないらしい」（荒川理事長）ので、日中並走は動かない。

2年前の第1回選手権（クウェート）で、日×中は、準決勝で顔を合わせ、26－19で日本が勝っている。

それまで4回の対戦で、すべて負けていた日本にとって、この一戦は、対中国初勝利だった。今回も、日本の優位が予想されるが、この2年間、中国のみせた頂点強化対策は、めざましいものがあり今夏の日本×西ドイツ交流（本誌第177号参照）も、元はといえば、中国の西ドイツ交流が実現されてこそ、のものであった。

このほか、昨秋のフランス国際トーナメント参加や、7月のユーゴ招へいなど、〃国際経験〃という点では、日本を上廻る実績をあげている。

2年前の7点差は、少なくとも今回は「参考」になるまい。

日本側は、当初、今大会を、引きつづくアジア予選（前頁参照）のトライアルと考えていたものを最近になって「2大会とも必勝」に切り替え、アジア予選へのはずみにしようとしている。

東コーチは「アジア予選で勝ってもその前に、未加盟の中国に敗れていては、〃アジア大陸代表〃の名にかかわる」といっており、選手たちも、中国戦に焦点をあてている。

その表情には、少なくとも、2年前の勝利に安心しているカゲはない。この緊張は、日本にとって〃大きな戦力〃であり、二つ目の金メダルを手にすることへつながるエネルギーとなりそうだ。

## クウェートも進境示す

日×中にからむとすれば、クウェートだろう。

国内リーグに西ドイツのレフェリーを招いたり、コーチを呼ぶなど、東欧圏からしきりに、その強化意欲は、なみなみならぬものがある。

前回は、日本に17－30、中国に25－38だったが、今回は、少なくとも、10点差以内まで力を伸ばしている、とみておいてよいのではなかろうか。

このほかの国については、ほとんど情報が入っていない。

そのなかで注目されるのは、インドだ。

大学チームを中心に、すでに10年余の球史があり、国際交流を早くから望んでいた。

プレーのベースは、バスケットボールのようだが、3年後にアジア競技大会（ハンドボールの実施は未確定）開催を控えて、各スポーツとも、高まりを示している。

一説には、2年後の第3回アジア選手権に名乗りをあげているともいわれ、その試合ぶりは興味深い。

なお、本誌〆切り直前、ホンコンが、代表者だけを開会式に参加させる、というニュースが伝えられた。

大会のレフェリーは、各国からの滞同(日本は岡前義春氏)と、地元中国協会審判員によって担当される予定。

## 荒川清美団長の話

男子は、二つのビッグイベントを三週間のうちに消化しなければならず、厳しい情勢だが、なんとしても「優勝」で乗りこえる。アジア選手権で、中国、クウェートなどを倒してこそ、アジア予選に勝つ意義がある。

女子は、コーチ陣からの報告によれば、好調のようなので、韓国戦の勝利を信じている。

中国問題など〃不確定要素〃はあるが、全国関係者の支援に応える三週間と思って、全力をつくす。

（日本協会理事長）

～10月30日夜・東京で～



















# こんなとき便利な ダイワキャッシュカード。




**日常のお引き出しに…**

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

**時間外のお引き出しに…**

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00(土曜日は午前9:00～午後2:00)まで、またマークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

**ご出張やお買物の折に…**

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーやマークのコーナーがお役に立ちます。

**給与のお引き出しに…**

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を

預金も
信託も…

**大和銀行**

マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

# 男女制覇狙う日体

## 28日から福岡で全日本学生

第22回（女子第15回）全日本学生選手権は、11月28日から12月2日まで福岡市民体育館を主会場に、男子32、女子17校が参加して、トーナメント法式で争われる。福岡での開催は4年ぶり2度目。

男女とも世界ジュニアへの選出や、ニューカレドニア遠征など、いつになく国際交流の活発だった今シーズンの学生界の総決算として、内容充実の試合が期待される。

優勝校の行方などを探ってみよう。（S）

◆**男子**　3連勝を狙う日体（関東）が今年も強そうだ。

関東学生では、春秋とも文句なしの優勝、関東以外の各校の力はやや落ちると伝えられるだけに、関東勢が奮起しないと独走となりかねない。

主力は、全日本の松井、GK井藤を攻守の軸に名嘉、長野、溝部ら技と力をミックス、多彩な攻守を誇る。

準々決勝は大阪体大(関西)、準決勝は法政(関東)×名城(東海)の勝者が相手とみられるが、まず、つまづくことはあるまい。

日体にストップをかけるとすれば、やはり反対ゾーンから勝ちあがると予想される早稲田、日大、筑波大の関東勢だ。

この3校は、関東学生秋季で5勝2敗、2位に並んでいる。

スコアの上で日体にいちばん肉薄しているのは日大の24―26だが早大は前半、筑波は後半、日体を上廻る得点をあげた。

一本勝負ということもあり、波乱を招く可能性は充分ある。

なかでも日大は、準決勝までの道のりが、どこよりも易しく、終盤に全力投球できる。それに、最近2年連続2位の悔しさはどこよりも大きいハズ。

仲田、山口の全日本コンビを柱に高梨、金岡、新人・馬場らの攻撃力は、日体に劣らぬし、ことに秋は仲田を世界ジュニアへ送りながらの善戦だけに、今回は、かなり自信があるとみてよい。

筑波も、世界ジュニアで国際級と折り紙をつけられた西山をはじめ、滝口、矢島いずれも全日本ら強力なスタッフだが、ディフェンスに粘りのないのが気にかかる。

早稲田の気力も注目してよい。

舟橋、武藤、犬飼が中心で波にのった時の強さは、日体も油断できない。準々決勝に予想される筑波大戦は、今大大会の一つのヤマといってよい。

ダークホースには中央（関東）をあげたい。秋季リーグでは入れ替え戦出場（24シーズンぶり）という低調だったが、田口、猪野、尾上の若手トリオが、世界ジュニアから戻り、前年3位の面目もあって汚名挽回をこの大会にかけている。早稲田戦をとれば一気に、という期待もできる。

ただ、中央にとって要注意は、緒戦の中京(東海)。曽貝、定岡、古橋、片山といったアタッカーによる得点力は侮れない。

関東勢以外で、となると、やはり大阪体大(関西)、名城（東海）か。

ともに「打倒関東」の意気はすばらしいものがあり、スピード負けしなければ、上位進出も夢ではない。名城は4年年連続ベストフォアの目標もある。

このほか、広島大(中四国)、金沢工大(北信越)、仙台大(東北)、九州ナンバー・ワン福岡大の活躍に興味がかけられる。

また、学連関係者から好評価されているのは国士館、東海、順天堂の関東勢、大阪経大、近大の関西勢のまとまりである。一発を狙ってのファイトは無気味だ。

なお、第1回以来、連続出場を誇っていた東北学院(東北)は、ついにその記録に終止符を打った。

ちなみに22回連続出場は日体、中央、筑波（東京教大時代を含む）の3校だけ。

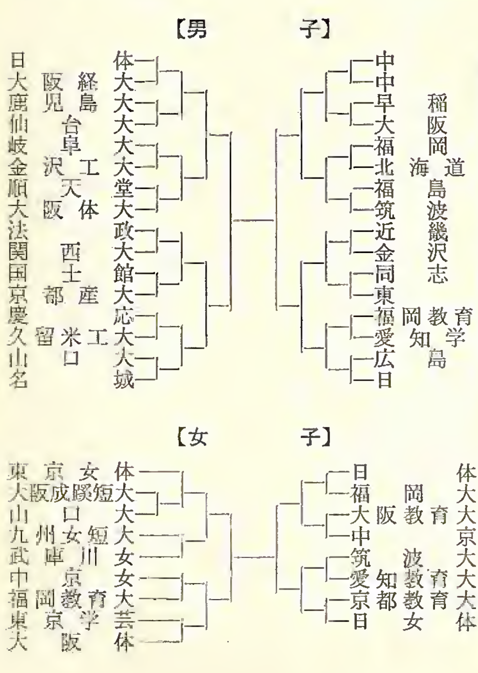
◆**女子**　参加校は去年より4校少いが、実力伯仲、混戦模様である。

順当なら準決勝は東女体(関東)×大阪体大(関西)、日体(関東)×日女体(関東)だが、東女体には武庫川女(関西)が、大阪体大には中京女（東海）が、日女体には筑波（関東）がからむ。

この7校には、いずれも優勝を狙うだけの力と技があるが、しいてしぼれば、日体、東女体、武庫川女となり、日体×東女体・武庫川女の勝者による決勝と考えてよいのではなかろうか。

武庫川女は強いつよいといわれながら、クジ運に恵れぬこともあって、過去ベストフォアは3回（うち3位1回）だけ。

東女体は、秋の関東学生が2位に終っているだけに、インカレ3連勝は、どうしても成し遂げたいところ。武庫川女の進境はあるものの、磯山、川波という学生界では近来にない攻撃コンビをもつ東女体が僅かに有利か。となると、決勝は2年ぶり11度目の東女体×日体だ。関東学生秋季で、土俵際から盛り返して東女体に連勝、優勝を〝奪還〟した日体の自信は大きなものがある。矢野、梅山、石井、加藤、戸栗と揃う攻撃陣は、久々に日体らしいスピードとパワーを備えている。ダークホースは昨年2位の日女体。



# ジャスコ、劇的な初優勝

## 2位にビクター

## 第4回日本リーグ幕閉じる

# 男子は大同特殊鋼が2連勝飾る

今年のリーグ・チャンピオンは男子が大同特殊鋼(愛知)、女子がジャスコ（三重）に決まった――初夏5月から前、後期に分け、約5カ月にわたって激戦をつづけていた第4回日本リーグは、10月に入って順位争いをかけた終盤の熱闘を展開。各地を沸かせながら、フイナーレを迎えた。

男子は、大同特殊鋼が日新製鋼（広島）戦に完勝、9戦全勝となり、最終戦を前に得失点差115をマーク2年連続3度目の優勝を決定づけた。

大同を追う湧永薬品（広島）は、最終戦、みごとな試合ぶりで大同に一矢を報いた。

注目の3位争いは、本田技研鈴鹿（三重）が10月の2戦を手固くモノにして滑りこんだ。

4位以下は、日新が、これまでとはみちがえるような試合ぶりで勝ち点をあげ、大阪イーグルスを抜いて2年連続4位となった。5位は前期好調の大阪イーグルス、6位は三陽商会。

一方、女子は、予想どおりジャスコ(三重)×日本ビクター(茨城)が7戦無敗で対決、満員の観衆を沸かす白熱戦の末、ジャスコが試合終了寸前、河田の決勝ゴールで、劇的な初優勝を飾った。

3位はブラザー工業（愛知）が、10月の2連勝で辛くも確保、4位には日立栃木（栃木）が初めて食いこみ注目された。

対照的に立石電機（熊本）は2勝1分にとどまり初のBクラス、以下、大崎電気(埼玉)、北国銀行（石川)、大和銀行(大阪)となった。

来年の第5回リーグは、オリンピックイヤーのため、男女とも回総当り制で、9月29日開幕の予定である。

## 後期第4週

◆10月5日・静岡草薙体育館（観衆千二百）

・男子

本田技研鈴鹿 26（15―7、11―11）18 三陽商会

激しい闘志のぶつかり合う試合だったが、試合運びでは本田が一枚も二枚も上。

前半10分をすぎるあたりから、田上、佐藤、矢野らがチャンスを確実に活かして点差を拡げた。

三陽は、攻撃が一本調子、後半本田の攻守が雑になったところをついて関(全日本)、尾形、大熊らが好シュートを放ったが、前半の劣勢をくつがえすまでには至らなかった。

・女子

ジャスコ 17（10―3、7―5）8 ブラザー工業

大和戦の1分けがあって、優勝争いから一歩後退しているブラザーだったが、全日本のクイーンとしてはジャスコ、ビクターには、どうしても一矢を報いたいところ

その気力が、序盤は発揮されて2―2とせりあったが、12分ジャスコ・松下の巧技にはじまる連続ゴールで2―7とされると、すっかり元気をなくしてしまった。

ジャスコは、後半、やや鋭さを欠いたが危気ない展開で、ビクターと並ぶ5連勝。

▽同・大阪河内長野体育館（観衆八百）

・男子

日新製鋼 20（10―7、10―11）18 大阪イーグルス

立ち上り10分間は、ともに勝負を意識しすぎて動きが鈍く、ボールの手につかぬプレーが多かった

どちらかといえば、イーグルスが僅かに押し気味だったが、日新は10分すぎ、イーグルスのシュートミスにつけこんだ下茂の巧技で落ちつきを取り戻し、辻本（全日本）に頼るだけの相手攻撃陣をおさえる一方好機を手がたくつかんで、リードを奪った。

後半、イーグルスは源野、福井三谷の連取で10―10とし、地元ファンの期待を高めたが、直後に源野が反則退場、日新はこのチャンスに泉の3ゴールなどで、優位をキープした。

終盤、イーグルスは、辻本の大活躍で1点差に追いあげたのだが今度は、辻本が反則退場、日新の逃げ切りを許してしまった。

両チームとも、入れ替え戦回避の気力をみなぎらせ、力のこもった好試合だった。

## 第5週

◆10月21日・沖縄奥武山体育館（観衆二千）

・男子

大同特殊鋼 24（11―11、13―8）19 日新製鋼

9月30日に予定されながら台風の影響で延期されていたカード。

パワーの大同、テクニックの日新という特色がスタートから出て前半は、力とワザの激突で、シーソーゲームを展開。

頭上越えのダイナミックなシュート、スピーディなパスワーク、フェイント攻撃の応酬で場内を沸かせ、不利とみられた日新が一歩も引かず、いっそう試合内容を盛りあげた。

後半になると大同が蒲生（全日本）ら大型選手でグイグイ押しまくり、リードを奪い、日新の終盤の必死の反撃を振り切った。日新はパワー負けといえた（沖縄タイムス戦評から）

・女子

ブラザー工業 14（7―3、7―8）11 立石電機

試合開始早々、ブラザーはポイントゲッター・宮平(全日本)にボールを集め、速攻をかけた。

2本のロングシュートを惜しくもはずした宮平は、2分すぎ右サイドからハイジャンプのシュートを決め先行、そのあとも、ブラザーは押しまくり、17分すぎにも、宮平の鮮やかなPTがあって4点差をつけた。

後半もブラザーペース。なかでも宮平は地元（宮平は那覇商高出身）の大声援をバックに走りまくり、立石の徹底的なマークを振り切ってポイントをあげた。

立石は、終盤、エース紀野の連

## 第4回日本リーグ最終成績（一部）

【男子勝敗表】

（星取りは左側前期）

| | 大同 | 湧永 | 本田 | 日新 | 大阪 | 三陽 | P | 総得点 | 総失点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①大同特殊鋼 | …… | ○● | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | 18 | 275 | 162 |
| ②湧永薬品 | ●○ | …… | ○○ | ○○ | ○○ | ○○ | 18 | 262 | 168 |
| ③本田技研鈴鹿 | ●● | ●● | …… | ○○ | ●○ | ○○ | 10 | 213 | 224 |
| ④日新製鋼 | ●● | ●● | ●● | …… | ○○ | ●○ | 6 | 195 | 222 |
| ⑤大阪イーグルス | ●● | ●● | ○● | ●● | …… | ○○ | 6 | 184 | 248 |
| ⑥三陽商会 | ●● | ●● | ●● | ○● | ●● | …… | 2 | 170 | 275 |

【女子勝敗表】

（女子は1回総当り）

| | ジャ | 日ビ | ブエ | 日立 | 立石 | 大阪 | 北国 | 大和 | P | 総得点 | 総失点 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①ジャスコ | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 14 | 114 | 72 |
| ②日本ビクター | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 12 | 116 | 85 |
| ③ブラザー工業 | ● | ● | … | ○ | ○ | ○ | ○ | △ | 9 | 93 | 73 |
| ④日立栃木 | ● | ● | ● | … | △ | ○ | ○ | ○ | 7 | 113 | 104 |
| ⑤立石電機 | ● | ● | ● | △ | … | ● | ○ | ○ | 5 | 81 | 85 |
| ⑥大崎電気 | ● | ● | ● | ● | ○ | … | ● | ○ | 4 | 77 | 107 |
| ⑦北国銀行 | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | … | △ | 3 | 56 | 77 |
| ⑧大和銀行 | ● | ● | △ | ● | ● | ● | △ | … | 2 | 62 | 109 |

続シュートなどで猛反撃したが及ばなかった。（琉球新報戦評から）

◇おことわり 第4、5週の個人テーブル未着。

## 第6週（終最週）

◆第1日▽10月26日・大阪市中央体育館（観衆千五百）

・男子

本田技研鈴鹿 23（9－5、14－9）14 大阪イーグルス

【大阪】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 広川 | 0 |
| GK | 信貴 | 0 |
| FP | 高橋 | 4 |
| FP | 源野 | 1 |
| FP | 足羽 | 0 |
| FP | 大西 | 2 |
| FP | 河原崎 | 1 |
| FP | 福井 | 0 |
| FP | 辻本 | 4 |
| FP | 杉尾 | 0 |
| FP | 三谷 | 0 |
| FP | 勝本 | 2 |

【本田】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 柴田 | 0 |
| GK | 大畑 | 0 |
| FP | 田上 | 4 |
| FP | 佐藤 | 8 |
| FP | 喜井 | 1 |
| FP | 豊岡 | 1 |
| FP | 佐々木 | 3 |
| FP | 矢野 | 4 |
| FP | 西田 | 0 |
| FP | 高橋 | 2 |
| FP | 松本 | 0 |
| FP | 吉山 | 0 |

（審・新村、新井）

23（5） PT （1）14

前期に勝ち星をあげているイーグルスは、この日も勝って4位以内にメドをつけたいところだったが、本田技も、ここで敗れては、負け越しの汚名、奪起しての一戦となった。

前半は、本田技が佐藤の好PTで着実にポイント、イーグルスも動きでは劣らなかったが、やはり名GK本田を世界ジュニアのコーチとして送った穴は大きく、徐々に点差が開き、後半は、やや一方的ともいえる展開になってしまった。

・女子

大和銀行 10（4－5、6－5）10 北国銀行　引き分け

【北国】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 酒谷 | 0 |
| GK | 高橋 | 0 |
| FP | 庄田 | 0 |
| FP | 中山 | 3 |
| FP | 本田 | 0 |
| FP | 木戸 | 0 |
| FP | 千歩 | 2 |
| FP | 木内 | 0 |
| FP | 八木 | 4 |
| FP | 西出 | 1 |
| FP | 坂 | 0 |
| FP | 宮西 | 0 |

【大和】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 丸山 | 0 |
| GK | 茂利 | 0 |
| FP | 宮本 | 2 |
| FP | 若杉 | 0 |
| FP | 冨家 | 2 |
| FP | 増永 | 1 |
| FP | 東木 | 0 |
| FP | 米山 | 1 |
| FP | 西田 | 1 |
| FP | 門 | 0 |
| FP | 鈴木 | 3 |
| FP | 山下 | 0 |

（審・丸岡、光島）

10（1） PT （3）10

[illegible]13分2－5とリードされた大和が冨家の連続ゴールで1点差としにわかに活気づいた。

勢いにのる大和は、後半5分までに3点をあげ、北国も1点を追加、5－5の互角となった。

しかし、動きの鋭さで優る北国は、7分千歩（全日本）のPTで再び先行、八木が2点を奪って9－7とした。

大和も粘り16分9－9のあと、終了30秒前宮本のロングで10－9と逆転、初勝利確実とみえたが、北国はラストプレーに起死回生ともいうべきスカイを仕掛け、八木－中山で同点に追いついた。

◆第2日▽10月27日・呉市民体育館（観衆九百）

・男子

日新製鋼 23（9－5、14－9）14 三陽商会

【三陽】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 吉近 | 0 |
| GK | 田村 | 0 |
| FP | 関 | 0 |
| FP | 金子 | 3 |
| FP | 梅屋 | 0 |
| FP | 坪子 | 0 |
| FP | 稲木 | 0 |
| FP | 三上 | 1 |
| FP | 石原 | 0 |
| FP | 鵜沢 | 0 |
| FP | 尾形 | 2 |
| FP | 大熊 | 8 |

【日新】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 三田 | 0 |
| GK | 筒本 | 0 |
| FP | 泉 | 0 |
| FP | 徳田 | 4 |
| FP | 大庭 | 0 |
| FP | 吹上 | 4 |
| FP | 洞ヶ瀬 | 3 |
| FP | 脇若 | 5 |
| FP | 森 | 1 |
| FP | 下茂 | 4 |
| FP | 湯中 | 1 |
| FP | 口野 | 0 |

（審・岡村、中村）

23（3） PT （2）14

10月に入っての2試合で、これまでの低迷から立ち直った日新は、ホームコートでの大事な一戦とあって、いっそう元気にみちたプレーで、4位に滑りこんだ。

立ち上りは、さすがに固く10分間ノーゴール、この間に三陽も1点だけという貧投戦。15分すぎから、ようやく両チームの攻撃にエンジンがかかり、22分三陽が5－4とリードした。

しかし、日新は23分吹上の同点ゴールから一気のなだれこみで、あっという間に4点差をつけた。

後半、三陽は大熊のパワー攻撃で、5分9－11と反撃の気勢を示したが、日新は5分のPT（洞ヶ瀬）で一息つき15分15－11、終盤は、脇若のシャープなプレーを中心に、疲れのみえた三陽を突き放した。迫力はあったが、反面、荷いプレーも目立った。

・女子

立石電機 13（6－5、7－8）13 日立栃木　引き分け

【立石】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 丸山 | 0 |
| GK | 井村 | 0 |
| FP | 姫野 | 3 |
| FP | 桑原 | 1 |
| FP | 亀園 | 1 |
| FP | 紀野 | 5 |
| FP | 是枝 | 0 |
| FP | 羽立 | 2 |
| FP | 橋ノ口 | 0 |
| FP | 福永 | 0 |
| FP | 藪田 | 0 |
| FP | 喜久山 | 0 |

【日立】

| | 選手 | 得 |
|---|---|---|
| GK | 寺沢 | 0 |
| GK | 斉藤 | 0 |
| FP | 吉田 | 0 |
| FP | 島田 | 2 |
| FP | 山戸 | 0 |
| FP | 大輪 | 5 |
| FP | 箕輪 | 1 |
| FP | 小根沢 | 0 |
| FP | 水上 | 3 |
| FP | 毛塚 | 0 |
| FP | 大高 | 0 |
| FP | 沖山 | 1 |

（審・平田、東）

13（5） PT （5）13

4位争いのカードだったが、日立は、残り5秒箕輪のシュートで辛くも引き分け、Aクラス入りを決めた。

前半は、チャンスの割に得点の少ない展開となり15分4－2とした立石が巧く追加点をあげて先行をつづけた。

後半、立石ディフェンスが甘くなったところを日立が突きはじめ8分9－8と逆転、立石も紀野、姫野の活躍で20分11－11と粘りついた。

このあと日立が22分水上（全日本）で12－11とすれば、立石も羽立が決め同点、引き分けかと思えたが、立石は残り30秒、PTを紀野が決めて勝利を拾ったかにみえた。

ところが、ラストチャンスに望みをかけた日立は、タイムアップ寸前、同点に追いついた。

前半なかばすぎから好テンポとなり、順位争いの激しさをみせつける白熱戦だった。

## 大同、無敗記録30でストップ

◆第3日＝最終日▽10月28日・名古屋市体育館（観衆二千）

・男子

湧永薬品 19（9—8、10—9）17 大同特殊鋼

| 得 | 【湧永】 | | 【大同】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 福井 | GK | 柳川兄 | 0 |
| 0 | 大城 | GK | 大園 | 0 |
| 0 | 津川 | FP | 中井 | 0 |
| 3 | 穂積 | FP | 花輪 | 2 |
| 1 | 松本 | FP | 柳川弟 | 2 |
| 3 | 山本 | FP | 大原 | 0 |
| 3 | 生駒 | FP | 中本 | 1 |
| 2 | 池ノ上 | FP | 蒲生 | 12 |
| 5 | 藤本 | FP | 浦田 | 0 |
| 0 | 志賀 | FP | 小野 | 0 |
| 0 | 戸田 | FP | 松原 | 0 |
| 1 | 原田 | FP | 藤中 | 0 |
| 0 | | （審・光島、狩野） | | |
| 19（2） | | PT | | （5）17 |

9試合を終ったところで大同の得失点差が115、湧永は92。つまり湧永は12点差以上の勝利をあげない限り優勝は望めなかった。

しかし、湧永は、宮崎国体で惜敗したあとでもあり、また、全日本総合（12月12～16日・東京）のことを考えれば、「勝利」が、どうしても必要、気力をみなぎらせてのスタートとなった。

息づまるような得点の奪い合いは10分3—3、15分5—5、25分8—8と譲らぬ展開となり、スタンドの目を釘づけにしたが、湧永は残り40秒松本で、待望のリード点をあげ、前半を終えた。

後半、大同は蒲生のPTで9—9としたが、湧永は戸田、山本、松本と巧者がたたみかけ5分12—9、好ペースとした。

大同も、つねに湧永戦は先行を許しながら追いつき、追いこしているだけに、慌てず、11分12—14と射程圏においての追撃だった。

しかし、湧永も、つねに同じ手を食ってはなるものか、とばかり12分生駒（全日本）、14分池ノ上（全日本）で16—12と4点差をつけ、すぐに松本が1点を返されると、すぐに松本が奪いかえすという〝粘り〟で、20分18—13と優位をキープ。

大同はここから迫る。珍しくマン・ツウ・マンをかけられなかった蒲生が豪快な攻撃の本領を発揮25分15—18、湧永は26分松本で15—19としたが、大同は、というより蒲生は27、28分ゴールをあげ17—19に詰め寄った。

このあたりの攻防は、迫力に満ち、スリル満点だったが、さしもの大同も、湧永のファイトにあふれたディフェンスに追加点をあげられず、宿敵に名を成さしめ、52年第2回リーグ後期からの無敗記録を30（29勝1分）で止められた。

・女子

ブラザー工業 19（8—5、11—2）7 大崎電気

| 得 | 【ブ工】 | | 【大崎】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 山本 | GK | 中崎 | 0 |
| 0 | 屋比久 | GK | 藤村 | 0 |
| 2 | 中川 | FP | 西 | 0 |
| 3 | 植田 | FP | 陽田 | 0 |
| 5 | 宮平 | FP | 佐々木 | 0 |
| 1 | 増永 | FP | 大場 | 2 |
| 1 | 塩谷 | FP | 徳渕 | 0 |
| 1 | 則武 | FP | 渡部 | 0 |
| 0 | 杏原 | FP | 石井 | 4 |
| 0 | 竹内 | FP | 根間 | 1 |
| 5 | 山村 | FP | 宮嶋 | 0 |
| 0 | 尾崎 | FP | 西嶋 | 0 |
| | | （審・吉田、安芸） | | |
| 19（3） | | PT | | （2）7 |

## 河田が決勝シュート

・女子

女子では久々にスタンドを酔わす好ゲームとなった。

先手はビクターがとり5分2—0。しかし、ジャスコは、5分、世界ジュニア帰りの山本（二）が、つづいて横山が2本、あっさり3—2と形勢を逆転させた。

ビクターは、8分加藤（全日本）で3—3とするが、もう一つ鋭さがない。

ジャスコ 14（8—8、5—5）13 日本ビクター

| 得 | 【ジャ】 | | 【日ビ】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 山本一 | GK | 鈴木 | 0 |
| 0 | 矢部 | GK | 塙 | 0 |
| 1 | 松下 | FP | 加藤 | 1 |
| 0 | 金田 | FP | 穂積 | 4 |
| 3 | 横山 | FP | 小島 | 4 |
| 4 | 河田 | FP | 染谷 | 1 |
| 0 | 若田 | FP | 伊藤 | 0 |
| 5 | 山本二 | FP | 池田 | 3 |
| 0 | 平田 | FP | 寺村 | 0 |
| 0 | 林 | FP | 村上 | 0 |
| 0 | 笠 | FP | 高橋 | 0 |
| 1 | 辻本 | FP | | |
| | | （審・川島、森） | | |
| 14（1） | | PT | | （5）13 |

ジャスコは再び山本（二）、横山が攻めこむなどして13分5—5、ビクターが15分小島（全日本）のPTで5—5とすれば、17分山本（二）が決めて7—5。山本の急成長は驚くばかりだった。

若手が活躍すれば、松下（全日本）も黙ってはいられない。21分みごとな切りこみで8—6、点差があいた。

ところが、今度はビクターのベテランの発奮だ。22分穂積（全日本）、24分46秒池田がゴールを奪って同点（8—8）に持ちこんだ。

後半、ビクターがいきなりPT（池田）で久々に先行すると、すぐジャスコは河田（全日本）が射ち返し、両び一進一退。

1点を追うビクターは19分小島がPTを決め13—13。ジャスコは22分、河田が巧みなインターセプトから持ちこんで豪快なシュート14—13とした。残り3分、ビクターに反撃の機会はあったわけだが、ジャスコ守備陣は鮮やかに守り切り、宿願の初優勝を飾った。

◆ベストセブン

〔男子〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・GK | 福井　秀人 | （湧永） | 初受賞 |
| ・FP | 蒲生　晴明 | （大同） | 3回目 |
| | 柳川　　実 | （大同） | 初受賞 |
| | 津川　　昭 | （湧永） | 3回目 |
| | 穂積　豊彦 | （湧永） | 4回目 |
| | 脇若　正二 | （日新） | 初受賞 |
| | 辻本　孝二 | （大阪） | 初受賞 |

〔女子〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ・GK | 山本　福代 | （ブラ） | 2回目 |
| ・FP | 松下　仁美 | （ジャ） | 2回目 |
| | 河田　栄子 | （ジャ） | 2回目 |
| | 中川しげみ | （ブラ） | 初受賞 |
| | 宮平　恵子 | （ブラ） | 初受賞 |
| | 加藤美起子 | （ビク） | 4回目 |
| | 島田さゆり | （日立） | 3回目 |

◆最優秀監督賞（第1回）

〔男子〕

野田　　清（大同）

〔女子〕

鈴木　義男（ジャスコ）

◆個人得点ベスト5

〔男子〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①蒲生 | （大同） | 91 | （内PT39） |
| ②佐藤 | （本田） | 70 | （33） |
| ③津川 | （湧永） | 50 | （2） |
| ④辻本 | （大阪） | 48 | （0） |
| ⑤田上 | （本田） | 41 | （9） |

〔女子〕

| | | | |
|---|---|---|---|
| ①小島 | （ビク） | 35 | （内PT22） |
| ②河田 | （ジャ） | 30 | （5） |
| ②紀野 | （立石） | 30 | （15） |
| ④松下 | （ジャ） | 27 | （13） |
| ⑤宮平 | （ブラ） | 27 | （13） |
| ⑤大輪 | （日立） | 27 | （12） |

◆個人シュート率ベストテン

〔男子〕

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①松　本 | （湧永） | 0.625 | （S56. | P35） |
| ②柳川弟 | （大同） | 0.619 | （63. | 39） |
| ③蒲　生 | （大同） | 0.559 | （93. | 52） |
| ④津　川 | （湧永） | 0.527 | （91. | 48） |
| ⑤大　原 | （大同） | 0.519 | （77. | 40） |
| ⑥高　橋 | （大阪） | 0.508 | （65. | 33） |
| ⑦中　井 | （大同） | 0.485 | （68. | 33） |
| ⑧徳　田 | （日新） | 0.464 | （69. | 32） |
| ⑨辻　本 | （大阪） | 0.462 | （104. | 48） |
| ⑩佐　藤 | （本田） | 0.451 | （82. | 37） |

〔女子〕

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①山本二 | （ジャ） | 0.655 | （S29. | P19） |
| ②吉　田 | （日立） | 0.468 | （47. | 22） |
| ③中　川 | （ブラ） | 0.449 | （49. | 22） |
| ④島　田 | （日立） | 0.404 | （27. | 19） |
| ⑤加　藤 | （ビク） | 0.400 | （50. | 20） |
| ⑤穂　積 | （ビク） | 0.400 | （55. | 22） |
| ⑦河　田 | （ジャ） | 0.391 | （64. | 25） |
| ⑧水　上 | （日立） | 0.328 | （58. | 19） |
| ⑨松　下 | （ジャ） | 0.327 | （52. | 17） |
| ⑩大　場 | （大崎） | 0.285 | （72. | 20） |

（注）男女とも1位を「得点王」として表彰

# 「強化部長」、当分の間荒川理事長が代行

9月22日東京で開いた月例常務理事会の主な決定事項を中心にお伝えしよう。

なお、日本協会では、12月8日に全国理事会、同9日に臨時全国代議員会の招集を予定している。

＜全国中学校大会の運営について＞

第八回全国中学校ハンドボール大会は、機関誌前号で報告されたとおり、八月二一日から二三日まで八王子市の中大体育館で行なわれたが、翌九月の常務理事会において、大西普及部長から大会運営組織の問題も含めて経過報告がなされ、例えばブロック割り一つをとってみても従来の日本協会の組織と異なっており、予選を含めた大会運営上支障を来たしていることが指摘された。

この問題は大会準備中から議論されたものであるが、当日の常務理事会の結論も、文部省にも学校教育としてのワクもあるだろうから、その改善、調整については日体協との協議に委ねることとし、日本協会としては、大局的見地から、スタックなど協力できるものは協力することとし、日本協会が主体的に考えて協力できない点は改善を求め、予算措置も洗い直すことになった。

日本協会としては、中学校という小さいワクの中で考えずに、学童期のハンドボールをどう普及させていくか、その指導者をどのように確保するか、親子ハンドボールなど地域スポーツの普及とどう関連づけるか、などもっと広い視野で把えるべきであり、是々非々の立場を貫くべきであろう。

従って、普及部から中学部として独立すべしという意見もあるがむしろ企画部との有機的連けいのもとに、普及部の充実、強化を図ることが先決であろう。

＜強化部の強化＞

渡辺強化部長が辞任届が出されてから荒川理事長が本人と接触したが本人の辞意が固いことが常務理事会に報告され、了承され、当分の間荒川理事長が強化部長を代行することになった。

一〇月と一一月は、前記のとおり公式試合のため延べ五チームが海外に遠征するわけで、その関係の事務だけでも大変なものである

元来強化関係の事務だけで事務員一人を要するくらいあるのであるが、従来は強化委員会の一スタッフが内職的に手助けしていたために強化委員会内部及び日本協会事務局との連絡が不充分だった。渡辺強化部長の負担も相当なものであった。日体協から委嘱されている総括担当コーチを日本協会の専従として事務的なものを含めて行なわせる必要があろう。

（大野金一・日本協会総務部長）

■デサントハンドボールウェアは日本ナショナルチーム(男女)/日本リーグ(男女)/大学選抜(男女)で採用されています。

# 勝ちぬく速攻メカ。

凄い奴がでた。その名は「ザ・スタジアム」ハンドボールウェア。「アクションカット」「Jカット」という新機能を搭載。腕の動きをケタ違いに高め、速攻機能を大きく広げた。まさに、ハンドボールのための新兵器。ボールをゴールにたたきこむ、とっておきのメカだ。世界選手権をはじめヒノキ舞台で活躍する。デサントのノウハウがいま、コートで吠える。

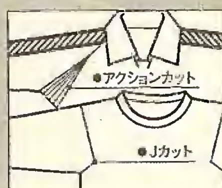



写真:DSS-201 衿付長袖シャツ(肩アクションライン) ¥3,400■スクラムニット■ポリエステル50% 綿50%■S・M・L・O STUDIUMはデサントの登録商標です。

THE STADIUM®
DESCENTE
《本格派》デサント・ハンドボールウェア/ザ・スタジアム



JOC-MS-2-79-1
1980 MOSCOW デサントはモスクワ五輪に協力しています。

発売元/株式会社デサント

# 日本協会加盟団体リポート

## 全国高体連ハンドボール部

▼昭和五十四年度秋季全国高等学校総合体育大会中央委員会が昭和五十四年十月二十三日、松山市において開催され、次の様なことが報告、協議されました。

一、昭和五十四年度全国高校総体の反省

(一)、大会申込みが期限に遅れた県があり、事務処理上困った。

(二)、大会運営については、近府県で審判員の委嘱ができたので、経費の節減ができた。また、運営面についても支障がなかった。

(三)、体育館で実施したことは好評であった。しかし盛り上りの面では五会場に分散したため、例年に比し低かった。

二、昭和五十五年度以降の全国高校総体、五十五年度は愛媛県が主会場で、ハンドボールは愛媛県宇和島市で行なわれる。

　昭和五十六年度全国高校総体は神奈川県が主会場で、ハンドボールは東京都で行なわれる。

　昭和五十七年度全国高校総体は鹿児島県が主会場で行なわれる。

三、全国大会検討委員会報告

(一)、昭和五十五年度全国高校総体の規模は前年通り。

(二)、昭和五十六年度以後の全国高校総体の規模は、昭和五十四年度の実態を検討し、調整する。

(三)、団体種目は、一県一チーム、開催県は、他に一チームとする。

(四)、個人戦は一県一名、若しくは一チームとする。

▼昭和五十四年度全国高等学校ハンドボール選抜大会。

一、従来の後援団体の外に文部省が加わることが内諾されました。

二、期日　昭和五十五年三月二十五日（火）より二十七日（木）の三日間

三、場所　山口県徳山市立体育館徳山高校体育館。

四、参加チーム　全国九ブロックより、代表男、女各一チーム。開催県代表男、女一チーム。の男、女各十チーム。

五、大会要項は近日中に山口県実行委員会より配付されます。

▼イタリアの「テラモ・インターナショナル・ハンドボールクラブ」より、「第8回インターナショナル・ユース・カップ」という国際トーナメントの招待状が事務局に届けられました。

　この大会は国際ハンドボール連盟の公式年次目録に記載されている大会で、台湾、クウェート、ポーランド、ギリシャ、スウェーデンアルジェリア、象牙海岸、イタリア等、三大陸の若人のトーナメントで五大陸のすべてからの参加を希望して特に日本の男子、又は女子に招待が来たもので、トーナメント期間中は宿泊、食費すべて無料とのことです。

　期日は一九八〇年七月四日より八日まで、イタリアのテラモで。

　細部については今回の文書ではよくわかりませんが、国際試合の招待があったことをお知らせします。

（清水　正）

## 全日本学生連盟

　実業団リーグが活発化する昭和35年頃から日本のハンドボールもそれまでの学生独占時代から多様化の時代へと推移して行った。学連自体もそれまでの関東、関西の二本柱から全国各ブロックに連盟が誕生し運営が複雑多岐にわたるようになった。よろこばしいことに、連盟の運営は建設的、協力的で明るいムードに包まれている。私利、私欲をもち込む者もなく、派閥の争いもない。しかしやはり量的拡大の発展に比し財政窮乏のアマチュアスポーツ団体に伴なう悩みは尽きない。学連の実情と問題点を述べてみたい。

(一)地方学連を如何に盛りたてるか

　どうしても関東、東海、関西の3地域が活況を呈しその他の地区がさびしい。本夏北海道学連が中心となって東日本学生選手権を札幌で開催したのも地方学連の刺激とし、地方へのハンドボールのPRに資するためのものであったが

(二)国際交流

　国際化時代を反影し学連の国際交流も日韓定期戦以外に世界学生選手権、西独遠征と輪が広がり本年はめずらしくも南洋は仏領ニューカレドニアへ国際試合に全日本学生選抜チームを送り込んだ。学連関係者も学生選手諸君も負担はかさむが国際的なスポーティングツアーには関心が強く、それに大きな意義を感じ高く評価している

　こうした趨勢の中でマンネリ化した日韓学生交流のメリットとデメリットが最近問題となってきつつある。

(三)行事の過密化と学生の高負担

　かっては己のリーグ戦のみに集中できた学生は、最近増える一方の広域行事（インカレ、東西対抗、東日本学生、西日本学生等）への参加のために高い旅費、宿泊費の出費に泣かされている。一回戦で消えるチーム、勝ち進むチームそれぞれに悩みがある。一年中続くゲームや、合宿練習で健康管理やけがの防止に心身の摩滅も大変なものである。地域やチームにより格差があるが、国際交流も含め、むだを省きより効果的な交流と行事を模索中である。

(四)マスコミ対策

　学連に限らず、この問題はもはや日本ハンドボール界が背負わされた宿命のテーマである。すでにその対策は言い尽くされた感があり、皮肉な事にハンドボールの発展とマスメディアの多様化に逆比例してPRはむしろむずかしくなってきた。今のところ学連は既得権を失なわないように迅速且つ忠実に報道機関に報告し、一回でも多く活字にしてもらうしかない。全国紙より地方紙の方がより大きく掲載される余地があろう。

（久田　暁）

【お詫び】本誌前号9頁最上段の見出しは「中国のIHF加盟促進をAHFが要望」の誤りでした。

# 少年男子で氷見高（富山）3連覇の偉業

第34回国体ハンドボール競技は10月15日から19日まで宮崎女子高を主会場に全国の代表4種別80チームを集めて行われた。

かってない豪雨に見舞われ，競技の大半は雨天会場で消化されるという異例の運行，成年は予想どおり日本リーグ勢を送った地方が今年も強く，男子は愛知の7連勝，女子は茨城の2年ぶり4度目の優勝となった。注目の少年は男子で富山・氷見高が愛知・桜台高以来の3連覇の偉業を成就，女子は兵庫が初優勝を飾った。天皇杯得点は愛知が2年ぶり7度目，皇后杯得点は石川の2連勝3度目となった。

## 宮崎国体・少年女子は兵庫が「初」

### 成年男子（47チーム）

▽1回戦

佐賀（佐賀教員）41（21－6，20－7）13 新潟（柏崎倶楽部）
香川（讃岐クラブ）34（12－9，22－9）18 山梨（山梨選抜）
宮崎（全宮崎）33（15－13，18－13）26 滋賀（滋賀クラブ）
京都（京都クラブ）35（19－4，16－9）13 鳥取（関金クラブ）
沖縄（沖縄県教員）32（14－12，18－10）22 愛媛（丸善石油松山）
神奈川（全神奈川）24（11－12，13－11）23 和歌山（丸善石油下津）
長崎（佐世保クラブ）28（18－6，10－12）18 山形（山形クラブ）
群馬（群馬教員）34（17－8，17－13）21 徳島（小松島航空隊）
石川（金沢あすなろクラブ）28（13－7，15－9）16 島根（朝酌クラブ）
兵庫（兵庫選抜）27（11－10，16－10）20 福島（福島SGクラブ）
福岡（赤間クラブ）27（14－12，13－13）25 福井（北陸電力福井）
奈良（生駒クラブ）22（10－5，12－14）19 高知（高知クラブ）
大分（新日本製鉄大分）28（18－8，10－13）21 岩手（岩手教員クラブ）
千葉（千葉教員）32（15－9，17－9）18 長野（北農クラブ）
岡山（岡山教員）21（13－10，8－9）19 青森（青森クラブ）

▽2回戦

愛知（大同特殊鋼）27（14－4，13－7）11 佐賀
宮城（全宮城）31（14－8，17－9）17 茨城（茨城教員）
山口（山口教員団）27（13－8，14－14）22 香川
宮崎 20（6－4，14－7）11 岐阜（岐阜選抜）
埼玉（大崎電気）23（9－4，14－9）13 京都
秋田（湯沢クラブ）34（17－11，17－11）22 沖縄
富山（全富山）22（12－5，10－12）18 神奈川
大阪（大阪イーグルス）25（10－10，15－9）19 長崎
三重（本田技研鈴鹿）38（18－7，20－14）21 群馬
熊本（全熊本）28（12－6，16－10）16 石川
兵庫 26（8－9，18－8）17 北海道（函館有闘クラブ）
東京（三陽商会）23（11－7，12－15）22 福岡
栃木（栃の葉）33（17－8，16－10）18 奈良
大分 19（9－5，10－5）10 静岡（清商クラブ）
千葉 34（18－10，16－10）20 鹿児島（鹿児島クラブ）
広島（湧永薬品）36（16－6，20－5）12 岡山

○…1、2回戦31試合、大きな波乱はなかった。

激戦とみられた神奈川×和歌山は予想どおりの展開になったが、和歌山は、前半のリードを、後半神奈川のスローペースに乗せられ失ってしまった。

奈良×高知も力が入った。立ち上りから奈良が先行、いちぢは大差がついたが、高知が最後まで試合を捨てず粘ったため、もつれた。

2回戦では、大阪に食い下った長崎の健闘が目立った。大阪は試合開始早々5－0とする好スタートだったが、動きが悪く、まとまりのある長崎の反撃を許し、後半どうにか、速攻で面目を保った。

東京も福岡に危かった。前半の運びからすれば、東京が楽なペースとみられたが、後半、雑なプレーが多く、福岡につけこまれた。後半16分14－14のあとは、福岡がむしろ押し気味、東京は残り1分間で辛くも、勝利を決めた。

このほか、宮城、秋田の東北勢の元気が目についた。

▽3回戦

愛知 46（21－5，25－5）10 宮城
宮崎 30（14－13，16－12）25 山口
埼玉 27（15－9，12－17）26 秋田
大阪 36（18－8，18－11）19 富山
三重 44（22－7，22－7）14 熊本
兵庫 29（14－9，15－11）20 東京
栃木 22（9－10，13－11）21 大分
広島 31（17－9，14－9）18 千葉

○…日本リーグ勢の一角・東京が崩れた。前日から東京は本調子ではなく、兵庫は、すべてに相手を上廻った。

栃木×大分は好試合、大分GKの活躍にあって栃木は苦しみ、後半、ようやく走りでチャンスをつかんだ。

埼玉×秋田は、秋田が大魚を逸した。埼玉は前半の点差に安心したのか、後半は気力を欠き、そこを秋田につかれたもの。

▽準々決勝

愛知 33（18－8，15－14）22 宮崎

○…宮崎は、前半なかばまで2点差（5－7）で食い下ったが、そのあと、愛知の攻撃リズムがととのうと、一気に点差を開かれた。

しかし、宮崎は、試合を捨てず後半、船木の活躍などで粘ったのは〝地元〟らしかった。

大阪　25（13－9　12－15）24　埼玉

○…埼玉の出足はよく4－1と先行、その後も順調に加点、5点差をつけた。

ところが、後半20分をすぎて、大阪の守りが締まり、同時に攻撃もテンポが出ると、あっという間に点差が縮まり、残り2分10秒、一気に逆転してしまった。埼玉のもろさは、考えられないものだった。

三重　28（16－5　12－6）11　兵庫

○…好調の兵庫も、気合いの入った三重の攻守には、歯が立たなかった。

広島　40（23－10　17－5）15　栃木

○…栃木は、広島のスピードについき切れず、前半なかばで勝負を決められてしまった。

▽準決勝

愛知　30（19－8　11－8）16　大阪

| 得 | 【愛知】 | | 【大阪】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 柳川兄 | GK | 広川 | 0 |
| 0 | 大園 | | 信貴 | 0 |
| 0 | 藤中 | FP | 高橋 | 0 |
| 2 | 中井 | | 源野 | 1 |
| 2 | 松原 | | 足羽 | 0 |
| 4 | 花輪 | | 大西 | 2 |
| 0 | 柳川弟 | | 橋本 | 2 |
| 6 | 大原 | | 河原崎 | 0 |
| 5 | 中本 | | 山口 | 0 |
| 8 | 蒲生 | | 福井 | 5 |
| 2 | 浦田 | | 辻本 | 5 |
| 0 | 小野 | | 杉尾 | 0 |
| 30（0） | | PT | | （2）16 |

○…大阪は開始45秒、福井のサイドシュートで先取点をあげたが愛知は2分から10分間に連続5ゴール、優位に立った。大阪は、相手の切り札・蒲生に橋本を密着させる策が一応、効を奏し、そのあと差を開かれなかったが、後半になると、スピード差がのぞきはじめ、愛知は矢次早の速攻で大阪をねじ伏せた。

広島　21（13－5　8－8）13　三重

| 得 | 【広島】 | | 【三重】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 大城 | GK | 柴田 | 0 |
| 0 | 福井 | | 大畑 | 0 |
| 4 | 津川 | FP | 田上 | 3 |
| 1 | 生駒 | | 佐藤 | 5 |
| 5 | 穂積 | | 喜井 | 0 |
| 0 | 藤本 | | 豊岡 | 1 |
| 0 | 志賀 | | 佐々木 | 1 |
| 4 | 戸田 | | 矢野 | 1 |
| 3 | 池ノ上 | | 西田 | 0 |
| 2 | 松本 | | 野口 | 0 |
| 2 | 山本 | | 高橋 | 1 |
| 0 | 原田 | | 谷元 | 0 |
| 21（2） | | PT | | （2）13 |

○…三重に、広島（湧永）に対する研究のあとがうかがわれ、好試合となった。

ところが、後半、三重はラフなプレーが目立つようになり、反則退場者を出したスキに、広島の攻撃をうけ、主導権を与えてしまった。ビッグチーム同士らしく、わずかな破たんが、勝負を色分けるきびしい展開であった。

▽3位決定戦

三重　24（13－6　11－7）13　大阪

▽決勝

愛知　20（12－11　5－6　延長 1－1　2－1）19　広島

| 得 | 【愛知】 | | 【広島】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 柳川兄 | GK | 大城 | 0 |
| 0 | 大園 | | 福井 | 0 |
| 0 | 藤中 | FP | 津川 | 3 |
| 3 | 中井 | | 生駒 | 0 |
| 0 | 松原 | | 穂積 | 2 |
| 1 | 花輪 | | 藤本 | 0 |
| 4 | 柳川弟 | | 志賀 | 0 |
| 4 | 大原 | | 戸田 | 1 |
| 2 | 中本 | | 池ノ上 | 3 |
| 6 | 蒲生 | | 松本 | 3 |
| 0 | 浦田 | | 山本 | 7 |
| 0 | 小野 | | 原田 | 0 |
| 20（4） | | PT | | （1）19 |

○…宿敵同士。広島は穂積のシュートなどでいきなり3－0としたが、そのあとの絶好機を二度も逃し、加点できなかったことから愛知に立ち直りのきっかけを与えてしまった。

こうなると、愛知のペース、押し気味の試合となったが、広島も気をとりなおして追いかけ、延長にもつれこんだ。

延長後も互角で、結着つかずの声さえ出たが、残り1分となって愛知は、広島、池ノ上反則退場のスキをついて、エース蒲生が鮮やかなジャンプシュートに成功、7連勝を決めた。

迫力に満ちた好試合だったが、愛知の一人々々のもつ展開力が僅かに、広島をしのいでいた。

## 成年女子（11チーム）

▽1回戦

福島（ムネカタ）21（15－6　6－6）12　山口（徳山クラブ）

大阪（大和銀行）23（15－4　8－0）4　北海道（室商OG）

大分（大分東シニアークラブ）29（17－7　12－6）13　愛媛（NSMクラブ）

▽準々決勝

茨城（日本ビクター）23（10－5　13－4）9　福島

石川（北国銀行）20（9－2　11－2）4　宮崎（全宮崎）

熊本（立石電機）20（12－6　8－1）7　大阪

三重（ジャスコ）29（15－9　14－6）15　大分

▽準決勝

茨城　14（7－5　7－4）9　石川

| 得 | 【茨城】 | | 【石川】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 鈴木 | GK | 酒谷 | 0 |
| 0 | 塙 | | 高橋 | 0 |
| 1 | 加藤 | FP | 庄田 | 1 |
| 4 | 穂積 | | 中山 | 0 |
| 5 | 小島 | | 本田 | 1 |
| 0 | 染谷 | | 木戸 | 0 |
| 1 | 伊藤 | | 千歩 | 4 |
| 0 | 寺村 | | 木内 | 0 |
| 2 | 池田 | | 八木 | 3 |
| 0 | 村上 | | 西出 | 0 |
| 0 | 高橋 | | 坂 | 0 |
| 0 | 志村 | | 宮西 | 0 |
| 14（7） | | PT | | （4）9 |

三重　21（10－7　11－8）15　熊本

| 得 | 【三重】 | | 【熊本】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 山本 | GK | 丸山 | 0 |
| 0 | 有村 | | | |
| 1 | 平田 | FP | 姫野 | 2 |
| 4 | 松下 | | 桑原 | 3 |
| 0 | 林 | | 山下 | 0 |
| 2 | 金田 | | 紀野 | 5 |
| 3 | 横山 | | 是枝 | 0 |
| 9 | 河田 | | 羽立 | 2 |
| 0 | 笠 | | 橋口 | 3 |
| 2 | 若田 | | 福永 | 0 |
| 0 | 宮崎 | | 喜久山 | 0 |
| 0 | 重村 | | | |
| 21（5） | | PT | | （2）15 |

▽3位決定戦

石川　13（8－4　5－7）11　熊本

▽決勝

茨城　17（9－5　8－9）14　三重

| 得 | 【茨城】 | | 【三重】 | 得 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 鈴木 | GK | 山本 | 0 |
| 0 | 塙 | | 有村 | 0 |
| 0 | 加藤 | FP | 平田 | 0 |
| 7 | 穂積 | | 松下 | 3 |
| 4 | 小島 | | 林 | 0 |
| 2 | 染谷 | | 金田 | 2 |
| 3 | 伊藤 | | 横山 | 5 |
| 0 | 寺村 | | 河田 | 3 |
| 1 | 池田 | | 笠 | 0 |
| 0 | 村上 | | 若田 | 1 |
| 0 | 高橋 | | 宮崎 | 0 |
| 0 | 志村 | | 重村 | 0 |
| 17（4） | | PT | | （3）14 |

○…まったくの波乱なしでベストフォアが決まった。

準決勝さえも、順当な結果で、わずかに熊本が、三重に肉薄したにとどまった。

決勝・茨城×三重は、それだけに、両雄対決にふさわしい盛りあがり。

前半、茨城は、ディフェンスがもう一つまとまらず、三重は横山の巧技などで1点をリードした。

しかし、後半、茨城はGK鈴木の堅守で三重の攻撃をおさえる一方、小島のPT、穂積のミドルなどで一気に主導権を奪い、逆転勝ちした。

石川×熊本の3位決定戦。石川が千歩、GK酒谷の活躍などで後半、勝負を決めた粘りはみごと。

クラブ勢はやはり力が違いすぎ再び「日本リーグ勢辞退」を望む声が、コートサイドで拡がっている。

## 少年男子（11チーム）

▽1回戦

大阪（大阪高校選抜）23（13－5、10－10）15 愛媛（新居浜工業高）

広島（修道高）18（11－7、7－9）16 北海道（函館有闘高）

東京（中大附属高）23（11－14、23－6）20 沖縄（浦添高）

▽準々決勝

富山（氷見高）19（8－8、11－4）12 大阪

宮崎（全宮崎）16（7－3、6－10、1－2、2－0）15 福島（福島選抜）

福岡（福岡選抜）21（13－8、8－8）16 広島

東京 26（14－8、12－10）18 愛知（愛知選抜）

▽準決勝

富山 25（12－9、13－9）18 宮崎

| 【富山】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 水谷 | 0 |
| GK | 浦 | 0 |
| FP | 高西 | 5 |
| FP | 山崎 | 5 |
| FP | 光安 | 5 |
| FP | 金原 | 0 |
| FP | 松田 | 2 |
| FP | 沢武 | 0 |
| FP | 前 | 5 |
| FP | 瀬戸 | 0 |
| FP | 中原 | 3 |
| FP | 矢田 | 0 |

| 【宮崎】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 工藤 | 0 |
| GK | 西畑 | 0 |
| FP | 甲斐 | 4 |
| FP | 桑永流 | 0 |
| FP | 松川 | 6 |
| FP | 児島 | 0 |
| FP | 新田 | 4 |
| FP | 折尾 | 0 |
| FP | 坂下 | 0 |
| FP | 山崎 | 0 |
| FP | 松田 | 2 |
| FP | 鴨 | 2 |

25（3）PT（2）18

東京 24（12－5、12－8）13 福岡

| 【東京】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 山口 | 0 |
| GK | 長坂 | 7 |
| FP | 実方 | 7 |
| FP | 大木 | 2 |
| FP | 尾島 | 1 |
| FP | 小山 | 1 |
| FP | 安藤 | 2 |
| FP | 鮫島 | 0 |
| FP | 田中 | 4 |
| FP | 佐藤 | 0 |
| FP | 坂井 | 0 |

| 【福岡】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 北川 | 0 |
| GK | 古賀 | 0 |
| FP | 長野 | 2 |
| FP | 角 | 1 |
| FP | 竹山 | 3 |
| FP | 永田 | 6 |
| FP | 田中 | 1 |
| FP | 坂本 | 0 |

24（0）PT（3）13

▽3位決定戦

宮崎 19（12－9、7－8）17 福岡

▽決勝

富山 26（13－11、13－12）23 東京

| 【富山】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 水谷 | 0 |
| GK | 浦 | 0 |
| FP | 高西 | 2 |
| FP | 山崎 | 0 |
| FP | 光安 | 15 |
| FP | 金原 | 0 |
| FP | 松田 | 2 |
| FP | 沢武 | 0 |
| FP | 前 | 6 |
| FP | 瀬戸 | 0 |
| FP | 中原 | 1 |
| FP | 矢田 | 0 |

| 【東京】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 山口 | 0 |
| FP | 長坂 | 2 |
| FP | 実元 | 12 |
| FP | 大木 | 1 |
| FP | 尾島 | 0 |
| FP | 小山 | 2 |
| FP | 安藤 | 2 |
| FP | 鮫島 | 0 |
| FP | 田中 | 4 |
| FP | 佐藤 | 0 |
| FP | 坂井 | 0 |

26（3）PT（5）23

○…全11試合、すべて少年（高校）らしい激戦だったが、追われる立ち場の富山・氷見高が、みごと3連勝を飾ったのは、特筆ものだ。

その道のりはけわしく、2回戦（準々決勝）の大阪戦では、前半、相手の速攻にあって主導権を握れず、準決勝では、地元宮崎の食い下りにあった。

離しても離しても追ってくる宮崎の粘りを払いのけるのに、時間がかかった。

そして決勝。東京も単独の中大付属高。春の王者だ。

高校ばなれしたスケールの大きい戦いとなり、氷見・光安、中大付・実方両エースの射ち合いは壮観だった。

互角の戦況から、勝負が決まったのは、後半22、24分のPT、富山は、じっくりこれを決め、安全圏に入った。

## 少年女子（11チーム）

▽一回戦

山口（高校選抜）16（4－8、12－0）8 千葉（千葉選抜）

宮崎（小林商業高）12（7－1、5－3）4 愛媛（新居浜商業高）

兵庫（兵庫選抜）15（7－7、8－2）9 沖縄（沖縄選抜）

▽準々決勝

山口 11（1－4、5－2、1－0、4－0）6 石川（小松市立女子高）

愛知（愛知選抜）17（6－5、11－4）9 熊本（熊本女子少年）

福島（福島選抜）16（8－7、8－5）12 宮崎

兵庫 18（11－2、7－5）8 北海道（函館女子商業高）

▽準決勝

愛知 13（8－3、5－9）12 山口

兵庫 15（9－1、6－8）9 福島

| 【山口】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 小山 | 0 |
| GK | 阿武 | 0 |
| FP | 岡村 | 0 |
| FP | 田中 | 2 |
| FP | 原 | 2 |
| FP | 松田 | 4 |
| FP | 山口 | 4 |
| FP | 徳原 | 0 |
| FP | 宮脇 | 0 |
| FP | 和田 | 0 |
| FP | 岩本 | 0 |
| FP | 岡岬 | 0 |

| 【愛知】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 山崎 | 0 |
| GK | 三宅 | 0 |
| FP | 寺沢 | 5 |
| FP | 松本 | 1 |
| FP | 竹中 | 0 |
| FP | 鷲野 | 3 |
| FP | 坪井 | 0 |
| FP | 落合 | 0 |
| FP | 大久保 | 0 |
| FP | 田中 | 2 |
| FP | 松下 | 1 |
| FP | 蜂須賀 | 0 |

13（3）PT（3）12

| 【福島】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 岩瀬 | 0 |
| GK | 水野 | 0 |
| FP | 岡部 | 1 |
| FP | 渡辺 | 0 |
| FP | 添田 | 0 |
| FP | 今泉 | 0 |
| FP | 吉田 | 4 |
| FP | 酒井 | 0 |
| FP | 和田 | 1 |
| FP | 吉野 | 0 |
| FP | 大平 | 3 |
| FP | 大竹 | 0 |

| 【兵庫】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 |
| GK | 石田 | 0 |
| FP | 小出る | 4 |
| FP | 秋成 | 5 |
| FP | 神山 | 0 |
| FP | 小出く | 3 |
| FP | 足立 | 1 |
| FP | 若水 | 1 |
| FP | 呉田 | 1 |
| FP | 青島 | 0 |
| FP | 橋本 | 0 |
| FP | 時実 | 0 |

15（1）PT（4）9

▽3位決定戦

山口 19（11－4、8－6）10 福島

▽決勝

兵庫 13（5－7、8－5）12 愛知

| 【愛知】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 山崎 | 0 |
| GK | 三宅 | 0 |
| FP | 寺沢 | 7 |
| FP | 松本 | 3 |
| FP | 竹中 | 1 |
| FP | 鷲野 | 0 |
| FP | 坪井 | 0 |
| FP | 落合 | 0 |
| FP | 大久保 | 0 |
| FP | 田中 | 0 |
| FP | 松下 | 1 |
| FP | 蜂須賀 | 0 |

| 【兵庫】 | | 得 |
|---|---|---|
| GK | 藤本 | 0 |
| GK | 石田 | 0 |
| FP | 小出る | 1 |
| FP | 秋成 | 4 |
| FP | 神山 | 0 |
| FP | 小出く | 2 |
| FP | 足立 | 0 |
| FP | 若水 | 4 |
| FP | 呉田 | 0 |
| FP | 青島 | 0 |
| FP | 橋本 | 0 |
| FP | 時実 | 2 |

13（0）PT（3）12

○…激しい強豪同士のつぶし合いのフィナーレは、ダークホースだった兵庫の劇的な決勝シュートだった。

兵庫×愛知の決勝戦を予想した人は少ない。しかし、兵庫は北海道から15点を奪い、好調福島を退けての進出、一方、愛知は、熊本山口を連破しての勝ちあがり、文句なしのものであった。決勝戦の内容もよかった。

わずかに兵庫優勢だったが、愛知は、残り1分をきって松本の同点シュート（12－12）が成り、延長かとみえた。しかし、前半の劣勢をくつがえしている兵庫の攻撃はたくましく、残り14秒、若水がすばらしいスピードで相手陣に突入、そのままシュートを決め、サヨナラ勝ちとなった。

### 総合得点順位

◆天皇杯（男女総合）①愛知②宮崎③兵庫④三重⑤福島・大阪⑦広島⑧石川⑨茨城・富山

◆皇后杯（女子総合）①石川②茨城・兵庫④福島・熊本⑥愛知・三重・宮崎。

### 国体種別配分でアンケート

日本協会は、来年度以降の国体全県参加種別について、各都道府県協会からアンケートを求めることになり、関係書類を発送した。

国体に全県参加種別を設けることは、51年11月の全国代議員会で決まり、52年成年男子、53年同女子、54年同男子と成年部門の男女交互に配分されていた。

55年は53年の全国代議員会で、成年女子と申し合せていたが確定にいたらず、このアンケートとなったもの。

# ふるさと国体を終わって

第34回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技は、10月15日から5日間、宮崎市の宮崎女子高校グランドおよび体育館、宮崎勤労者体育センターで開催された。

競技は、おりから接近しつつあった台風16号によって影響を受け15日・16日は強風に、17・18・19日は雨となり会場を屋内に移しての運営となった。長年にわたって準備され、県民・市民がまちにまった国体が人力では如何ともしがたい自然現象によって影響されたのは誠に残念であった。

4種別のうち1種別を47都道府県参加として青森国体で成年男子長野国体では成長女子、宮崎国体では2度目の成年男子各都道府県参加となった。昨年の成年女子の場合ほどチーム力の差はないとは云えるが、しかしやはり1回戦・2回戦では力の差が大きいチームの対戦が見られた。このことは現状ではやむを得ないことではあるが、ねがわくば早い時期に競技力を向上し、各都道府県のレベルがより高いところで肩をならべるようにしたいものである。

毎度のことではあるが上位に進出したのは日本リーグ勢であった

ベスト8に進出した宮崎（全宮崎）は強敵愛知（大同特殊鋼）に地元の声援を受けて善戦したものの敗れた。日本リーグ勢の一角東京（三陽商会）を29―20で破って意気あがる兵庫（兵庫選抜）も本田技研に大きく敗れ、ベスト4では日本リーグ勢の対戦となった。敗れたとはいえ両チームの健斗は大いにたたえられるべきであろう

ファイナルゲームは予想の通り愛知（大同）対広島（湧永）の対戦となった。この一戦は、数ある対戦の中でも球史に残る一戦となった。湧永の好調なスタートに大同が追う形で展開されたが、ついに延長戦にもつれこみ、第一延長を終って20―19と大同の勝利で結着見ごたえのある一戦となった。

成年女子の場合もベスト8に愛媛（NSMクラブ）を破って進出した大分（大分東シニアークラブ）と地元宮崎（全宮崎）が駒を進めたがともに日本リーグ勢の三重（ジャスコ）、石川（北国銀行）にそれぞれ敗れ準決勝では、茨城（日本ビクター）、熊本（立石電機）の日本リーグ4チームの対戦となった。決勝戦は、茨城（日本ビクター）対三重（ジャスコ）となった。このカードは日本リーグ最終日におそらくリーグの優勝をかけて戦うことになっており、その意味もあってともに負けられない対戦であった。ジャスコは前半を優位に戦ったが後半を5―9と逆転されビクターの軍門に下った。

一方少年に目を転じると、男女ともどものチームも力の接近したチームのゲームが展開され興味深いものがあった。

少年男子では、富山（氷見高校）宮崎（全宮崎）、福岡（福岡選抜）、東京（中大付属高校）がいづれも接戦の末ベスト4に進出した。決勝戦では、優勝の呼び声の高かった中大付属対氷見高校の対戦となった。「柔よく剛を制す」というか、小よく大を制すというか長身プレーヤーで編成された中大付属にくらべれば、小柄な氷見高高はよく走り、優れたコンビネーションによってディフェンスをくずし得点を重ねていくチームワークに徹した。ハンドボールは特筆すべきものであった。高校選手権大会では優勝を逸したが国体で花開きしかも、第32回青森国体、第33回長野国体につづいて国体少年男子の部3連覇の偉業は称えられるべきである。氷見高校チームを指導されこの偉業を達成された金原至先生、徳前啓人先生そして選手の諸君に最大限の拍手を送りたい。

「おめでとう氷見高校!!」

少年女子では男子にくらべると11チームの力には差が見られる。山口（山口県高校選抜）は、強剛石川を敗って、愛知（愛知選抜）は熊本（熊本少年女子）を敗って福島（福島県選抜）は地元宮崎（小林商業高校）を敗って、兵庫（兵庫選抜）は北海道（函館女子商業高校）を敗ってそれぞれ準決勝に進出、愛知対山口戦は後半に入って山口の追撃およばず13―12で愛知、兵庫対北海道は兵庫の地力がまさり18―8と兵庫、決勝戦では兵庫対愛知の対戦となった。ともによく走り予断を許さぬ好ゲームとなったが、終了15秒前にパスカットからの速攻が成功して劇的な幕ぎれとなり、栄冠は兵庫選抜の頭上に輝いた。

第34回国民体育大会もこうして台風にわざわいされながらも、その日程を消化して、数々の話題を残して終了した。

さて、最後になりましたが、宮崎国体の開催にご尽力くださいました宮崎県・宮崎市・そして宮崎県ハンドボール協会の皆さんに深く感謝しお礼を申しあげます。とくに台風という悪条件の中での大会運営ということもあってご苦労が多かったことと思います。

『ほんとうにご苦労様でした』。

（安藤純光・競技委員長）

**緊急速報**

# 中国男子、オリンピック予選へ IOC復帰が条件

## 「台湾での勝者」と日本で2試合

巨星・中国の男子チームが、モスクワ・オリンピックアジア地域予選に参加する可能性が濃くなった。

このビッグニュースは、11月6日東京で、IHF（国際ハンドボール連盟）のアジア担当理事・渡辺和美氏（日本協会参与、東京協会々長）が明きらかにしたもの。

11月17日から台湾で始まるアジア予選で、優勝確実とみられる日本に、大きな関門が、新たに待ち構えることとなりそうで、日本協会周辺は、にわかに緊迫している。

渡辺IHF理事の発表は、11月6日午後、東京渋谷の体協記者クラブで行われたもので、同理事は冒頭「IHFは、中国にモスクワオリンピック参加の道を開くことになった」と発言、「11月23日台湾で終わるアジア予選の男子勝者と中国を日本で2試合させ、勝者にモスクワ・オリンピックアジア大陸代表権を与える」と言葉をつなぎ、その具体的な方法（中国の〝資格〟）、ここに至るまでの経過などを明きらかにした。

それによると、IHFのP・ヒョークベルグ会長（スウェーデン）とM・リンケンバーガー事務総長（西ドイツ）が、11月3日から中国の南京市で行われる第2回アジア選手権に招待されて訪中、ここでAHF（アジア・ハンドボール連盟）理事でもある渡辺氏と落ち会い、「中国問題」を話し合った。

その結果、中国は、現在、IHFに未加盟（注・7月7日付で加盟申請書は出されている＝本誌既報）だが、IOC（国際オリンピック委員会）が、10月末、名古屋で開いた理事会で、中国のオリンピック復帰を、IOC委員の郵便投票によって行なうことを決めたことから、同投票で、中国の正式参加が決まれば、IHFも、ただちに、中国ハンドボール界に、モスクワへの道を、通じさせるとしたものである。

郵便投票は、11月26日〆切りで同日開票となるが、その場合、すでに、アジア大陸予選は、11月23日で終了しているため、同予選の勝者と中国が対戦（2回戦制）することとなった。

この場合、中国の資格が、問題になるが、これは、会長権限で、11月27日付で、中国の「仮加盟」を承認、アジア予選の勝者とのカードを組む、とされた。（注・正式加盟国にはいかなる場合もIHF総会以外では認められない）

これらの意向は、ヒョーグベルグ会長が強く打ち出した。突如、このような状態となったのは、キラニンIOC会長から、スイスにあるIHF本部あて「IOCの郵便投票の結果で、中国が未加盟の国際競技連盟（ISF）は、モスクワ・オリンピック参加の便宜を考慮して欲しい」旨の協力要請があったからだという。

11月3日の南京での会合には、中国体育総会の代表、中国ハンドボール協会々長（注・周之同氏）も出席して、約1時間半にわたった。そして、合意に達したところで、アジア選手権の日本選手団々長として南京に来ている日本協会・荒川清美理事長にも、この〝決定〟が伝えられ協力を求めた。荒川氏は全面的に了解、日本×中国となった場合「日本での開催を引き受ける」としたが、リンケンバーガー事務総長の要望で「韓国×中国、台湾×中国となっても日本で開催すること」になった。

また、この会合で、中国側から「今回は男子のみ参加したい」との発言があり、荒川氏を含む全員が了解した、という。

このほか、記者会見における渡辺IHF理事の発言は次のようなものであった。

一、今回の〝決定〟は、11月5日韓国、台湾協会にも通告した。

一、韓国協会は、不満を表明したが、台湾協会は了解した。

一、中国参加（仮加盟）の際、IHF内の台湾の立ち場は「中国・台北ハンドボール委員会」となろう。

一、会長権限で、中国をIHF仮加盟とし、オリンピック予選に参加させることに、ムリがあることは、承知している。

しかし、IOC・キラニン会長の意向をうけたIHFのポリシイだ。

一、IHFは、8月の理事会で私と会長、事務総長に「中国問題」の全権を一任してくれている。

これは、10月名古屋でのIOC理事会での結論に、即応するためであった。

一、仮加盟国のオリンピック予選参加に、IHF内の二つの委員会が反対することも考えられるがすぐに解決できよう。

一、アジア予選勝者×中国戦の日本開催を了解してくれた日本協会を、IHFは高く評価している

## 日中決戦 12月7日名古屋、9日東京

日本協会は、南京滞在中の荒川清美理事長（第2回アジア選手権団長）から、渡辺IHF理事の記者会見とほぼ同内容の連絡が届いたため、緊急常務理事会を開き、「日中決戦」の準備を開始。12月7日18時名古屋市体育館で第1戦、同9日15時東京・駒沢屋内球技場で第2戦を行うことに決めた。

**この緊急特集は、本誌校了後に起きた事態のため、特別ページ建（4頁）としました**

# IOCの要請、IHFを動かす

## 「日中決戦」見込んでいた日本協会

突如伝えられた中国男子のオリンピック予選参加。IOC（国際オリンピック委員会）の投票待ちという大前提があるものの、台湾でのアジア予選が「第一次予選」化することは確定的。

IHF（国際ハンドボール連盟）が、なぜ、こうまでして中国をこの時期に迎え入れたか、など、編集部では、できる限りの情報をもとに、緊急ルポしてみた。（11月7日）

○…渡辺IHF理事の記者会見を、日本協会役員は、ほとんど翌日の新聞で知った。

渡辺氏が、東京運動記者クラブを通じ、「IHFとして」日本協会とは、無関係に、発表を行ったからだ。

それだけに、日本ハンドボール界に与えた衝撃度は強く、「仮加盟国の中国に、オリンピック出場権があるのか」といった声は、なかでも多かった。

○…ムリもない。ほとんどの人が、11月13日からの台湾でのアジア予選に勝てば、モスクワ行きを確定できると思っていたし、これまで伝えられていた情報は「ハンドボールは、中国の参加なし」だったからだ。

しかも、新聞報道では、中国がIHFには、仮加盟どころか、現在は未加盟。

IOC委員の投票（11月26日〆切り、即日開票）の結果に、すべてがかかるというのでは、「中国参加」の説得力は、極めてうすいものであった。

○…IHFが、突如として、このような姿勢を打ち出したのは、渡辺理事の言からすれば「IOCからの要望」以外のなにものでもない。

名古屋でIOCの理事会から帰国したキラニンIOC会長（アイルランド）が、各国際競技連盟に「IOCが、中国復帰を郵便投票によって認めた場合、各連盟もぜひ、中国へ、モスクワ・オリンピックへの道を開いて欲しい」と協力要請（書簡）したのだ。

○…この書簡は、ハンドボールの場合、スイスにあるIHF本部へ届けられたそうで、それを持って、ヒヨークベルグIHF会長は南京におもむき、〝工作〟を開始した。

もちろん、中国に依存はあろうハズがなく、日本（荒川理事長）も、好意的な姿勢を示したから、南京での会合（11月3日）は、渡辺理事によれば「一時間半程度でまとまった」という。

ただ、それが、すべて問題がなかったことにならぬ点が、今回の〝難点〟である。

○…それは、多くの関係者、愛好者が指摘しているように、仮加盟国・中国の＜資格＞である。

また、すでに、モスクワ・オリンピックのアジア大陸代表決定に関する用意はすべてととのえられIHFからの公式文書（＝本誌179号11頁参照）も出され（9月25日付）、台湾での予選勝者を、アジア大陸代表とすると明示している常識的には、こうしたお膳立ての中へ、新参加する可能性はゼロに等しいし、また、そうしたことを許すべきではないというのが〝マナー〟である。

○…それを承知で、IHFがあえて、自から〝ルール破り〟をおかそうというのは、やはり「中国の大きさ」という以外に、言葉はみつからない。

ある消息通は「もし、IOC（キラニン書簡）からの要請がなかったら、IHFは、これほど積極的に動かなかったろう」という。

つまり、IHFは、IOCのプレッシャーを押しのけられなかったとみるのだ。IOCが、どの程度の効果を期待したかは知らぬがIHFにとって相当の圧力になったことは確かである。

○…オリンピックでハンドボールが行われたのは、古く一九三六年（昭11）のベルリン大会があるが、本格的に定着したのは、一九七二年のミュンヘン大会からである。

その後、モントリオール、モスクワ、それに八四年のロスアンゼルスと、その実施は続けられているものの、まだまだ、その国際パワーは、他競技に比べて、強いとはいえない。

IHFとしても、よほどのことがない限りIOCからの要望は、撥ねつけるわけにはいかないのだ

○…IHF理事会が、8月、中国から加盟申請が出されていた時点で結論を出さず、この問題を「会長一任」のような形にしたまま時をかせいでいたのは、IOCのこうした動きがあることを、ある程度、予測できたからではなかろうか。

「会長権限は、未加盟国を仮加盟国にし、一気にオリンピック予選へ招くほどのパワーがあるのか」という記者会見での質問に対し渡辺理事は、「IHF理事会（8月）で、中国問題は、会長—事務総長—アジア担当理事に委されることになっていた」ことを初めて明きらかにした。

この〝密約〟によって、いちばん復雑な立ち場に立たされたのはアジアを担当している同理事であろう。

○…渡辺氏は、これまで「台湾との同席を拒む中国のIHF入りは望まない」姿勢を貫いてきていた。

それが、中国の軟化で、形をかえての同席承認ムードが強まり、渡辺氏の主張は、崩れはじめていた。

それでも、同氏は「中国の参加は、モスクワ以降」といいつづけていたし、「中国の加盟申請が審議されるのは来年7月のIHF総会（モスクワ）になる。

しかも、その際、一気に正式加盟国になる保証はない」ともいっていた。

○…この姿勢は、IHF内部にもあったようだが、いち早く、この空気を察知したAHF（アジア・ハンドボール連盟）は、9月クウェートでの理事会で「中国のIHF加盟促進」というアピールを公けにし、ゆさぶりをかけている

IHFが、中国招へいに積極的でなかったのは、中国の主張する

## スマートさ欠いたIHF

### ～中国の参加をめぐって～

中国が、国際ハンドボールの舞台へ、〝正式に〟登場してくるのは大歓迎だが、IHFの今回の決定は、なんとも、スマートさに欠ける。

言葉を荒くすれば、会長権限とやらを使っての「ルール破り」だ。

中国は、いまだに(11月6日現在)IHF未加盟国、それを11月27日付で仮加盟国にし、10日後には、オリンピック予選へ出す、というのである。

中国は、今夏7月、初めてIHFへ加盟申請書を出した。

これまで「中国問題」を問われると「中国が加盟手つづきしない以上、話のしようがない」といいつづけていたIHFが、どのように出るか、興味深かったが、8月のIHF理事会(ドレスデン)では、協議に留めている。

せめて、ここで仮加盟国にでも手続きしておけば、今回の姿勢は、もっとスムーズに理解できたろう。

もっとも、渡辺IHF理事によれば「IOCの名古屋での理事会に即応するため、ヒョークベルグ会長、リンケンバーガー事務総長、私(渡辺)に、中国問題は全権委任されていた」という。公けにはできなかったがレールは敷いていた、といいたいのだろうが、それなら、なぜ東京での記者会見で「ムリを承知の措置」だの「IHF内の委員会から反対が出るかもしれない」といった言葉が出るのか。

やはり、IHFは、中国招へいを、モスクワ以後と踏んでいたのではないか。

それが、AHF(アジア・ハンドボール連盟)が、9月の理事会(クウェート)で、「中国のIHF加盟促進を」と決議したことやIOCからの協力要請で〝急変〟しなければならなくなったのだ。

記者にいわせれば、この二つはとうに読めた。

IHFは、8月の理事会で、中国を仮加盟国にし、IOCの姿勢決定で、それこそ、IHFも郵便投票あるいは臨時総会を招集し、中国を正式加盟国として認知、アジア予選に〝追加〟すべきだったのだ。

これは、記者の独断ではない

多くのヨーロッパのハンドボール記者や消息通は、「中国のモスクワ参加は、時間の問題」といっていたし、日本協会・荒川理事長は、昨年12月のアジア競技大会時に開かれたAHF総会で、早々とその方向をかぎとり、今春の西ドイツ遠征(団長)で、その感触の間違いないことを確認して来ている。

台湾との同席を拒んでいた中国をルール破り呼ばわりしていた渡辺理事たちが、最後の所へ来て、こんどは自からがルール破りをしなければならなくなったのは、なんとも皮肉だが、なにもかも、IOCという上の声がなさした業、と片付ければ、これ以上、波風は立ちそうにもない。

今回の騒動で日本協会が、少なくとも表面上は、「中国の参加は当然」としているのは救いだ。

これが、逆な立ち場でもとろうものなら、日本協会がルール破りぐらい云われかねなかった

(杉山　茂)

---

「台湾追放」のルールがなかったことだ。

○…それだけに、中国が、台湾を「台北ハンドボール委員会(協会)」として、IHF内部に残してもよいという内容をつけて、IHFに加盟申請(今夏7月7日付)したのは、IHFに新たな課題を持ちこんだ、といえる。

これは、あくまで推測の域を出ないが、IHFは、中国の加盟問題を、来年の総会まで棚上げし、その間、台湾と交渉する予定ではなかったのか。

それが、IOCからの要請で、一気に早まったといえなくもない

やはり、IHFは、8月の理事会で、中国を少なくとも仮加盟国にしておくべきではなかったか、という声が日本協会周辺では圧倒的だ。

ところで、仮加盟国に、オリンピックへの道を開く点で、直接の影響をうける韓国や台湾の動きはどうか。両協会とも、11月5日夜に、渡辺理事からの国際電話で、このことを〝通達〟され、韓国は即時に抗議したようだ。

○…一方、日本協会や、同強化筋は、衝撃度は強かったが、難敵とみられる中国参加にも拘らず、さしたる動揺は、みられない。

これは、荒川理事長が、今春来折にふれ「オリンピック予選に中国の参加の可能性がゼロでないこと」を嗅わしていたからである。

同理事長の論拠は、AHF総会などで中国がIHF未加盟国にも拘らず、オリンピック予選の期日に強い関心を示していたこと、今春のヨーロッパ遠征で、国際ハンドボール界が、中国招へいに強い関心を抱いているのが判ったこと今夏7月、西ドイツ・ティーレ会長から中国の姿勢を聞くことができた、などがあげられる。

○…8月のIHF理事会で、中国に〝資格〟が与えられなかったことが明きらかになったあとも、荒川理事長だけは、IHF外の有力筋から多くの情報を集め、アジア選手権出発直前には、親しいスポーツライターに「台湾でのアジア予選で、男子もモスクワ行きが決まる可能性は少なくなってきている」とさえ、もらすまでになっている。(ただ、荒川理事長も、中国が仮加盟でオリンピック予選へ出てくるとは思わなかったに違いない)

はたして、同じ時期、南京へ乗りこもうとしていたヒョークベルグ会長、リンケンバーガー事務総長、渡辺理事の〝心境〟はどうであったろう?

特に、渡辺理事はこれまで「台湾でのアジア予選がオールマイティ」と言明していただけに、5日の記者会見は、苦悩の色がうかがえたと伝えられる。

**緊急速報**

# 日本、中国破り2連覇 アジア選手権

日本は、中国を振り切り第2回アジア選手権（男子）で堂々の2連勝を飾った——中国のオリンピック予選参加の色が強まる中で、第2回アジア選手権は、11月3日から8日まで中国の南京市で行われ、日本は、パレスチナを29—14（前半15—7）、インドを44—8（前半23—4）、クウェートを27—9（前半14—5）、中国を27—25（前半13—12）で破り4戦全勝、2年前の第1回選手権につづき金メダルを獲得した。

2位は中国、3位クウェート、4位パレスチナ、5位インドだった。

◇

東嘉伸コーチからの連絡によると、日本×中国戦は前半20分日本が10—7とリード、ペースを握るかにみえたが、中国に粘られ前半は1点差。

後半、日本は再び好テンポで攻め、12分22—15と大勢を決めたかとみえたが、あと1点のとどめを刺せぬうちに、逆襲をうけ21分23—21と粘られた。

奮起した日本は26分27—23と離し、優勝を決定ずけた。一万人に近い大観衆の中での勝利は貴重。

## 日本、10位に食いこむ 世界女子ジュニア

【速報】第2回世界女子ジュニア選手権は、10月13日から23日までユーゴのプリスチナを中心に13カ国が参加して行われ、初出場の日本は10位となった。

大会は、参加国を3組の予選リーグに分け、各組上位2者で決勝リーグ、その他で7位以下の順位を争った。

日本は、A組で東欧の両豪にはさまれ、西ドイツ戦に必勝をかけたが、前半ディフェンスの崩れがあって傷口が開き惜敗、3敗となった。

しかし、7〜13位リーグに廻ってからは、ヨーロッパ勢の大きさにもなれ善戦、3勝1敗と星をかせぎ、10位に食いこんだ。

5位のフランスから10位の日本までは実力伯仲、順位争いに重点をおけば、ベストシックス入りも難しくはなかった。

しかし、今回の目的はあくまで「ジュニアに国際経験を積ませること」。山本、水上らの成長は目ざましく、大成果をあげた。

なお、優勝は、東欧勢の激しい争いの末、ソ連が、混戦を脱け出し、初優勝を遂げた。

▽予選リーグA組

ハンガリー 20（9—5 11—7）12 日本

〈日本の得点〉辻本5、水上4、山村2、石井1

ソ連 25（13—7 12—6）13 日本

〈日本の得点〉水上4、薮田、寺西、山村各2、辻本、山本、大高各1

西ドイツ 14（9—4 5—4）8 日本

〈日本の得点〉水上3、山本2、大高、山村、薮田各1

ソ連 19—10 西ドイツ

ハンガリー 19—11 西ドイツ

ソ連 18—11 ハンガリー

▽同B組

ユーゴ 18—5 オーストリア

フランス 21—12 イタリア

ユーゴ 41—7 イタリア

ノルウェー 17—3 オーストリア

フランス 12—10 ノルウェー

オーストリア 14—8 イタリア

ノルウェー 20—7 イタリア

ユーゴ 23—9 フランス

フランス 13—9 オーストリア

ユーゴ 20—14 ノルウェー

▽同C組

オランダ 26—5 アメリカ

東ドイツ 18—8 デンマーク

デンマーク 18—9 オランダ

東ドイツ 30—10 アメリカ

東ドイツ 20—11 オランダ

デンマーク 34—7 アメリカ

▽7〜12位決定リーグ

日本 21（15—9 6—5）15 オランダ

〈日本の得点〉岩城5、山本4、水上3、山村、大高、石井各2、薮田、大崎、寺西各1

日本 17（9—4 8—5）9 オーストリア

〈日本の得点〉辻本、山村各4、山本、水上各3、薮田2、寺西1

日本 31（14—7 17—7）14 アメリカ

〈日本の得点〉山本9、水上5、辻本、薮田各4、山村、竹内、石井各2、大高、寺西、坂本各1

ノルウェー 25（14—11 11—8）19 日本

〈日本の得点〉辻本6、山本5、水上4、山村2、大高、寺西各1

日本×西ドイツ戦は予選リーグの記録を適用

【順位】⑦ノルウェー⑧オランダ⑨西ドイツ⑩日本⑪オーストリア⑫アメリカ⑬イタリア

▽決勝（1〜5位）リーグ

ソ連 24—9 フランス

ハンガリー 17—13 東ドイツ

ユーゴ 17—12 デンマーク

ハンガリー 20—8 フランス

ソ連 19—12 デンマーク

ユーゴ 13（分）13 東ドイツ

ハンガリー 17—16 デンマーク

東ドイツ 29—9 フランス

ソ連 18—15 ユーゴ

デンマーク 17—10 フランス

東ドイツ 14—12 ソ連

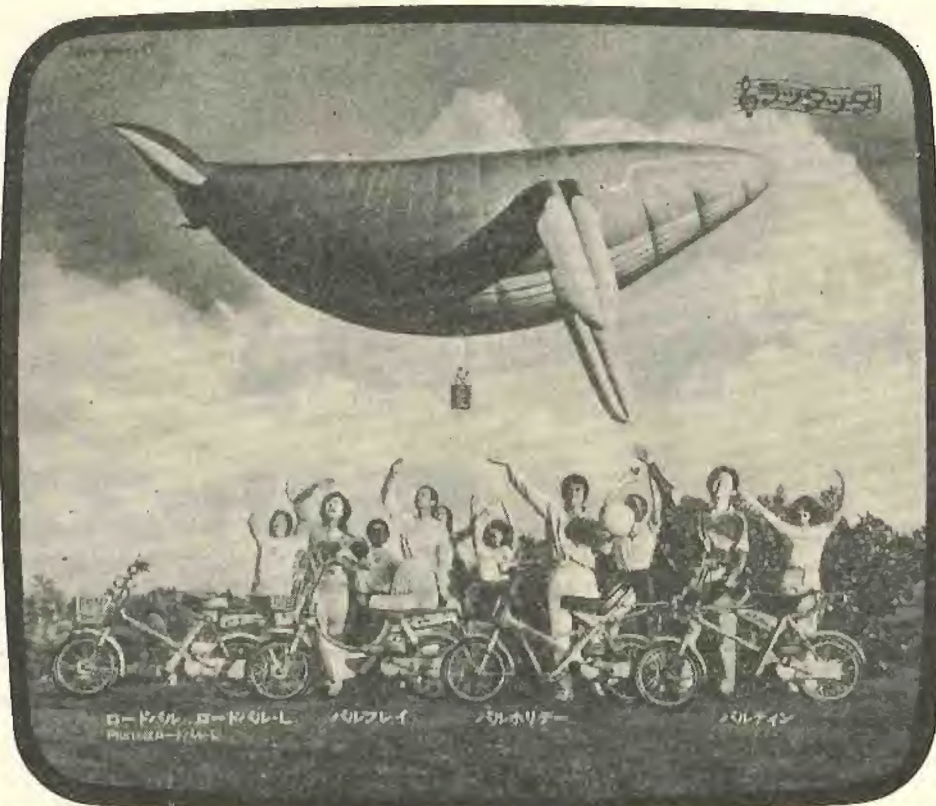
ユーゴ 16—13 ハンガリー

ソ連×ハンガリー、ユーゴ×フランス、東ドイツ×デンマーク戦は予選リーグの記録を適用。

【順位】①ソ連4勝1敗②東ドイツ3勝1分1敗（得失点差28）③ユーゴ3勝1分1敗（19）④ハンガリー3勝2敗⑤デンマーク1勝4敗⑥フランス5敗

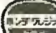
## 男子は19位

第2回世界男子ジュニア選手権で、日本は参加23カ国中19位となった。予選リーグB組の日本はハンガリーに22—37、デンマークに13—37、ルクセンブルグに22—19フインランドに19—19、フランスに19—24の1勝4敗、19位決定戦でベルギーに20—19で勝ったもの優勝はソ連。



ラッタッタ
ロードパル、ロードパル・L
パルフレイ
パルホリデー
パルディン



## ◇各地学生秋季リーグ戦①

# 金沢工大、金沢大を逆転

秋季学生リーグ戦のトップを切って北信越学生が10月6、7の両日信州大体育館で開かれた。

今シーズンから長野大が新たに加わり、4チームづつのリーグ戦でまず予選。Aブロックでは金沢工一が圧倒的な強さを示した。Bブロックでは、金沢大、福井大の争といみられたが、福井大が気力に欠け、金沢医科大に敗れるという大波乱があり、安定した力をみせた金沢大が決勝へ進出。

金沢工大×金沢大の決勝戦は、互いに好ディフェンスをみせ、1点を争う試合となったが、金沢工大が、前半20分すぎから得意の速攻で、ペースをとりもどし、後半は、そのリードを守って、逃げ切った。2シーズン連続12度目の優勝である。

▽予選リーグAブロック

金沢工大 33（16－7、17－4）11 富山大

信州大 27（15－7、12－3）10 長野大

富山大 18（6－10、12－7）17 信州大

金沢工大 57（24－2、33－0）2 長野大

富山大 24（13－3、11－5）8 長野大

金沢工大 27（13－7、14－6）13 信州大

【順位】①金沢工大②富山大③信州大④長野大

▽同Bブロック

金沢大 28（8－5、20－3）8 金沢美術工芸大

金沢医大 17（8－6、9－8）14 福井大

金沢大 21（10－3、11－7）10 金沢医大

福井大 28（15－4、13－5）9 金沢美術工芸大

金沢医大 19（11－3、8－4）7 金沢美術工芸大

金沢大 17（6－8、11－4）12 福井大

【順位】①金沢大②金沢医科大③福井大④金沢美術工芸大

▽順位決定ラウンド・7～8位

金沢美術工芸大 19－18 長野大

・5～6位

信州大 21（7－7、8－8、3－1、3－2）18 福井大

### 4位に金沢医大入る

・3～4位

富山大 21（12－9、9－10）19 金沢医大

・1～2位

金沢工大 17（10－9、7－6）15 金沢大

# 東北は仙台大の連勝

東北学生は、10月25日から28日まで弘前市民体育館で行われた。

男子は、参加13校を3組に分けて予選リーグを行ない、各組同位者によって、最終順位を争った。

各組勝者による決勝リーグには春季1、2位の仙台大、福島大に地元弘前大が食いこみ、注目をあびた。弘前大は、予選リーグで名門、東北学院を破って進出したもの。

しかし、三強リーグでは、仙台大、福島大が安定したチーム力を示し、第2戦の仙台大×福島大が〝決勝戦〟。仙台大が、前半、チャンスを確実に活かしたのに対し福島大は、惜しい逸機がありリードを許した。後半、まったく互解むしろ押し気味だっただけに、福島大にとっては悔やまれよう。仙台大は2シーズン連続4度目の優勝。

女子は1年ぶりの再開で、二校だけの参加だったが、岩手大が順当勝ち、3度目の優勝を遂げた。

▽男子・予選ラウンドA組1回戦

弘前大 16－13 宮城教大

東北学院 20－12 秋田大

▽同敗者戦

宮城教大 15－9 秋田大

▽同勝者戦

弘前大 17－6 東北学院

▽同B組1回戦（1試合）

日大工学部 9－8 北里水産学部

▽同2回戦

岩手大 30－15 北里畜産学部

仙台大 31－4 日大工学部

▽同敗者戦

日大工学部 8－6 北里畜産学部

▽同勝者戦

仙台大 14－11 岩手大

▽同C組1回戦

福島大 27－3 東北工大

東北大 22－6 山形大

▽同敗者戦

東北工大 16－13 山形大

▽同勝者戦

福島大 20－9 東北大

▽同7～9位決定リーグ

宮城教大 23－16 東北工大

宮城教大 24－15 日大工学部

東北工大 21－11 日大工学部

【順位】⑦宮城教大⑧東北工大⑨日大工学部

▽同4～6位決定リーグ

東北学院 23（7－14、19－3）17 東北大

岩手大 25（7－10、18－8）18 東北大

岩手大 20（8－9、12－7）16 東北学院

【順位】④岩手大⑤東北学院⑥東北大

▽同1～3位決定リーグ

福島大 13（6－6、7－4）10 弘前大

仙台大 19（8－6、11－11）17 福島大

仙台大 17（13－8、4－8）16 弘前大

【順位】①仙台大②福島大③弘前大

▽女子・決勝

岩手大 12（6－3、6－4）7 宮城教大

# 京都教大男女とも勝つ

▼近畿地区国立大学体育大会（8月・滋賀）

▽男子準決勝

大教大 18－16 奈教大

京教大 19－18 和大

▽同決勝

京教大 19（8－12、9－5、1－1、1－0）18 大教大

▽女子準決勝

京教大 16－9 奈教大

大教大 15－9 滋大

▽同決勝

京教大 11（8－2、3－4）6 大教大

# 日体、筑波を破り優勝

## 東日本学生

7人制になって初の東日本学生選手権は、8月29日から9月2日まで札幌の中島スポーツセンターに関東16、東北2、北信越1、北海道9の計28校が参加して行われ、日体が、初の栄冠を手にした。男子にさきがけて東京で行われた女子は東女体大が勝った（スコア本誌既報）

▽予選リーグA組
仙台大（東北）19－18 順天堂（関東）
日体（関東）33－8 仙台大
順天堂 33－8 小樽商大（北海道）
日体 25－13 順天堂
仙台大 18－16 小樽商大
日体 40－7 小樽商大
【順位】①日体②仙台大③順天堂④小樽商大

▽同B組
横浜商大（関東）19－19 横浜国大（関東）（引き分け）
日大（関東）34－5 北見工大（北海道）
日大 22－11 横浜商大
横浜商大 30－6 北見工大
日大 33－8 横浜国大
横浜国大 25－15 北見工大
【順位】①日大②横浜商科大③横浜国大④北見工大（②～③位は得失点差による）

▽同C組
室蘭工大（北海道）32－8 道東海大（北海道）
筑波（関東）22－13 明治（関東）
明治 50－7 道東海大
明治 27－7 室蘭工大
筑波 58－10 道東海大
筑波 35－9 室蘭工大
【順位】①筑波②明治③室蘭工大④北海道東海大

▽同D組
埼玉大（関東）16－9 東北学院（東北）
法政（関東）32－6 北海学園（北海道）
法政 22－6 埼玉大
東北学院 29－9 北海学園
埼玉大 20－9 北海学園
法政 28－8 東北学院
【順位】①法政②埼玉大③東北学院④北海学園

▽同E組
早稲田（関東）29－6 函館大（北海道）
東海（関東）33－8 北海道工大（北海道）
早稲田 21－17 東海
函館大 26－11 北海道工大
東海 16－10 函館大
早稲田 44－6 北海道工大
【順位】①早稲田②東海③函館大④北海道工大

▽同F組
慶応（関東）20－13 駒沢（関東）
大東文化（関東）15－8 北大（北海道）
慶応 24－10 大東文化
北大 12（分）12 駒沢
慶応 18－6 北大
駒沢 15－13 大東文化
【順位】①慶応②駒沢③大東文化④北大

▽同G組
国士館（関東）23－6 金沢工大（北信越）
創価（関東）21－11 北星学園（北海道）
金沢工大 28－12 創価
国士館 35－6 北星学園
国士館 30－11 創価
金沢工大 22－18 北星学園
【順位】①国士館②金沢工大③創価④北星学園

### 法政、早稲田を降す

▽決勝トーナメント1回戦
筑波 27（19－10、8－7）17 慶応
日大 29（13－11、16－9）20 国士館
法政 15（8－6、7－7）13 早稲田
（注）日体は不戦勝

▽同準決勝
日体 29（15－9、14－5）14 法政

| 【法政】 | 得 |
|---|---|
| GK 岩崎 | 0 |
| GK 会田 | 0 |
| 中島 | 2 |
| 工藤 | 3 |
| 中越 | 1 |
| 三浦 | 1 |
| 加藤 | 1 |
| 飯塚 | 1 |
| 道祖土 | 2 |
| 森本 | 3 |
| 直井 | 0 |
| 乃村 | 0 |

FP（審・新橋、武田）

| 【日体】 | 得 |
|---|---|
| GK 藤井 | 0 |
| GK 阿部 | 0 |
| 松井 | 4 |
| 岩本 | 2 |
| 長野 | 6 |
| 坂本 | 3 |
| 名嘉 | 5 |
| 伊藤 | 2 |
| 池田 | 1 |
| 溝部 | 2 |
| 成瀬 | 3 |
| 酒井 | 1 |

29（1） PT （0）14

立ち上りは互角だったが、徐々に日体ペース。法政は攻め手が単調で、相手守備陣を崩せなかった

筑波 19（11－8、8－12）18 日大

| 【日大】 | 得 |
|---|---|
| GK 須藤 | 0 |
| GK 遠山 | 0 |
| 高梨 | 2 |
| 仲田 | 7 |
| 山口 | 5 |
| 早坂 | 1 |
| 金岡 | 2 |
| 稲村 | 0 |
| 堀越 | 1 |
| 永井 | 0 |
| 馬場 | 0 |
| 高野 | 0 |

FP（審・南波、宮崎）

| 【筑波】 | 得 |
|---|---|
| GK 井酒 | 0 |
| GK 川厨 | 0 |
| 木佐々 | 4 |
| 浦松 | 0 |
| 水秀 | 3 |
| 口滝 | 2 |
| 島矢 | 7 |
| 野河 | 2 |
| 須高 | 1 |
| 野中 | 0 |
| 下山 | 0 |
| 尾西 | 0 |

19（3） PT （2）18

前半の勢いは、完全に日大だった。ところが、後半になると、筑波のローリングからの攻撃が、日大の守備網を切り崩しはじめ、終盤、同点に追いつき、残り1分で得たPTを秀永が決め逆転勝ち。

▽3位決定戦
法政 19（2－0、3－2：7－10、7－4）16 日大

▽決勝
日体 30（13－11、17－11）22 筑波

| 【筑波】 | 得 |
|---|---|
| GK 井酒 | 0 |
| GK 川香 | 0 |
| 木佐々 | 1 |
| 口滝 | 4 |
| 島矢 | 5 |
| 永秀 | 4 |
| 野河 | 2 |
| 野中 | 2 |
| 須高 | 1 |
| 下山 | 2 |
| 尾西 | 1 |
| 浦松 | 0 |

FP（審・武田、新橋）

| 【日体】 | 得 |
|---|---|
| GK 藤井 | 0 |
| GK 部阿 | 0 |
| 井松 | 6 |
| 藤伊 | 1 |
| 野長 | 10 |
| 嘉名 | 3 |
| 本岩 | 1 |
| 本坂 | 5 |
| 部溝 | 1 |
| 田池 | 0 |
| 瀬成 | 2 |
| 井酒 | 1 |

30（2） PT （4）23

〇…総合力の差が出た。日体は前半、長野が鋭いプレーで得点をかせいだ。筑波も、けして悪いデキではなかったのだが、日体のバランスのとれた攻守、とりわけ、攻撃面での走力には一歩をゆずり後半、いちど追いあげたものの、ペースを取り戻すまでには、いたらなかった。秋のシーズンまで一カ月近くあるこの時期、決め手はやはり〝走ること〟にあった。

★ベストセブン（男子）GK井藤（日体）、FP松井（日体）、坂本（日体）、最優秀選手、日体）、名嘉（日体）、矢島（筑波）、佐々木（筑波）、山口（日大）
（女子）GK高松（最優秀選手、東女体）、FP磯山、川波、藤本（以上東女体）、矢野、戸栗、加藤（以上日体）。

**関東秋季など閉幕**　【速報】関東学生秋季リーグは、男女とも日体が優勝。関西は男子が大体大、女子は武庫川女大、東海は男子が中京、女子が中京女大の優勝。

昭和54年度

# 全国教員養成大学研修会



## 報告・日本協会普及指導部

昭和54年度全国教員養成大学ハンドボール研修会は、要項通り、8月17日(金)～20日(月)の3泊4日筑波大学学生宿舎に宿泊し同大学の施設を使用して講義実技の研修が行われた。(＝カット写真は研修会全参加者)

今回筑波大学に会場を移して行なったのは次の理由からである。

今までは東京オリンピック記念青少年総合センターに宿泊し、同センターの施設と旧東京教育大学の施設を利用して行なっていたが、センターの体育館が狭く十分な活動ができないことや、旧東教大の施設は宿舎より離れた位置にありまた東教大閉校後はグランドや体育館が荒れるにまかされているために研修には不適な施設となってきたためである。東京の中心で、しかも多人数が宿泊でき、料金も安いという好条件がそろっていながら研修の施設の面で会場を移さなければならないのは残念なことであった。また受講者の間からは以前から希望が出されていたことであったが「東京ばかりでなく他の場所でもやって欲しい」ということに応え、これを機会に、会場を全国に移動して開催してみようとする試みでもあった。

○講師 (敬称略)

的場益雄　安藤純光
高橋健雄　北川勇喜
阿部徳之助　山崎　武
大西武三　平岡秀雄
家村一敏　氷海正行
土井秀和　樋口道夫
斉藤辰雄　佐藤　靖
笹倉清則
補佐　筑波大学学生

○参加者

広島大学　男子8名
島根大学　男子9名
鳥取大学　男子9名
大阪府立大学　男子10名
都留文科大学　男子13、女子7名
拓殖大学　男子5・女子1名
滋賀大学　男子12・女子15名
北海道教育大学旭川分校　男子10・女子7名
信州大学　男子7名
愛知学院大学　女子8名
奈良女子大学　女子12名
大阪体育大学　女子12名
文教大学　女子11名
和歌山大学　女子6名
東海大学　女子3名
日本女子体育大学　女子12名

以上男子83名、女子90名計173名が参加した。

○研修会運営スタッフ

普及部員
大西武三・樋口道夫・斉藤辰雄
現地補助員
河村レイ子・佐藤靖・笹倉清則
小山　浩・筑波大学ハンドボール部員15名

○研修会日程

前日　8月16日
4:00～6:00　受付

▼第一日 (8月17日)
9:30　開講式　大西武三普及指導部長挨拶
講演 "ハンドボール指導者に望むこと" 的場益雄教職員連盟副会長
11:30　安藤純光競技部長挨拶
連絡・調査
12:00　昼食
1:00～2:30　技術研修 "速攻法"
3:00～4:00　審判法研修　安藤純光氏指導
4:00～5:00　ゲーム
5:00～9:00　入浴・夕食　参加学生による交歓会

▼第二日
9:00～10:00　講義 "学校体育としてのハンドボールの指導" 高橋健夫教職員連盟副理事長
10:30～11:15　技術研修 "攻撃の基礎"
11:15～12:00　ゲーム
2:00～4:00　技術研修 "戦術としての攻撃"
4:00～5:00　ゲーム　最後は講師と選抜チームとの模範試合
5:00～8:00　夕食・入浴
8:00～9:00　講演と映画　北川勇喜企画部長

▼第三日
9:00～10:00　参加者と講師との "Q&A" 大西・北川・家村・氷海・土井・平岡・阿部の各氏が解答に当る
10:00～10:30　技術研修 "防禦の基礎"
11:15～12:00　ゲーム

2：00〜 技術研修
〝戦術としての防禦〟
3：00〜 〝ゴールキーパーの練習法〟 指導 北川勇喜氏
4：00〜 ゲーム
5：00〜 夕食・入浴
8：00〜 講演と映画
9：00 参加者の選択で会場毎に分かれる

▼第四日

9：00〜 講義
〝グリーン・ハンドボールについて〟大西武三氏
ハンドボールのルールテスト
10：00〜 全体ミーティング
・各チームより報告
・講師より一言
・参加者感想文作成
・練習記録提出
11：00 閉講式
・研修会修了証授与

。技術研修内容

今回はチーム毎に経験年数、各地方のリーグでの成績などを参考になるべく等質のグループとし、指導が効率よく行なわれるよう考慮した。また各々のグループに指導力豊かな講師があたるようにした。グループ分けは、

Aグループ 指導者 北川勇喜氏
拓殖大・広島大・大阪府大男子
Bグループ 指導者 氷海正行氏
信州大・都留文科大・北海道教育大男子
Cグループ 指導者 家村一敏氏
樋口道夫氏
滋賀大・島根大・鳥取大男子
Dグループ 指導者 平岡秀雄氏
斉藤辰雄氏
日女体・大大阪体大・筑波大（補助）女子
Eグループ 指導者 土井秀和氏
佐藤 靖氏
北海道教育大・愛知学院大・都留文科大・滋賀大女子
Fグループ 指導者 阿部徳之助氏
山崎 武氏
東海大・文教大・和歌山大・奈良女子大・拓殖大女子

のようにして指導を前述の日程に沿って行なった。各々のグループに応じて指導内容も多少異なっているので一例としてCグループ（男子・初心者が比較的多い）の内容をあげてみる。

▽一日目（午後）―速攻―
・準備体操（各チーム当番制）
・ランニング
・フットワーク
・ラン・パス
・パスの基本練習
・シュート練習（参加者のレベルを知るためフリーに）
・キーパーよりの速攻
1マン速攻
2メン速攻
（メモ）

初心者が多くフットワーク、パスなどで腰が高く不安定なフォームの者がおり個別に助言する。速攻ではパス回しのスピード化、そのタイミングのつかみ方に留意しパスを受けるところも考えて行なうようにした。また許容歩数である3歩とドリブルの有効利用があまりされていないため注意する。

審判法研修の後のゲームでは経験・技術の不足から視界が狭くボールの動きを歩めてしまったり、不必要なパスで速攻が得点に結びつかないことが多かった。

▽二日目（午前）―攻撃の基礎―
・準備体操 ・ランニング
・パス練習 対人パス 三角パスとそのバリエーション
・シュート練習 ステップシュート、ジャンプシュート、特殊シュート
・フェイント 1対1の攻防
・クロスプレー 2対1の攻防
2対2の攻防
3対2の攻防
・ゲーム
（メモ）

ゴールエリア際のシュートではバックモーションが緩慢でディフェンスにカットされやすく、ディフェンスをかわすフォームとスピードある動きに留意した。フェイントではその方法のいくつかを師範指導した。クロンプレーではスピーディな動きをつけるように心掛けた。ゲームでは2対1ができてるのに自からシュートチャンスをつぶしたり、ポストプレーが十分に活用されてないなどこれからの課題が多々見いだされた。

（午後）―戦術としての攻撃―
・前日の復習
・2対1の速攻
・2対2の速攻
・3対2の速攻
・2対2の攻防（ハーフコート）
・中央・サイドでの3対2の攻防
・3対3オールコートでの攻防
・3対3ルーズボールよりの攻防
・ゲーム
（メモ）

疲れが見えはじめる。パスをいつも同じようにするのではなく速い、山なりの、長い、短いパスやバウンズパス等、場面に応じて使えるよう助言。2対2や3対2でのユニットプレーの習熟とその応用がこのグループに望まれると思われる。またゲームではルーズボールの扱い、攻撃のフィナーレであるべきシュート、攻撃から防禦への移行の遅さなどに技術以前の上達への秘訣が隠されているように思われた。

▽三日目（午前）―防禦の基礎―
・準備体操 ・ランニング
・防禦のスタンス
・防禦のフットワーク
・パス練習
・シュートカット（1対1）

・2対2の攻防｝ユニットプレー
・3対3の攻防｝
・3対3オールコートでの攻防
・ゲーム

（メモ）

シュートカットでは直上にジャンプしたり手を出すだけの順向があり、シューターに向かって前につめるよう指導した。ユニットプレーではつめやもどりのスピードそれに応じたフットワークを重視した。

（午後）―戦術としての防禦―

・フリーシュート
・2対2の攻防
・3対3の攻防（中央・サイド）
・3対3（オールコート）
・6対6（ハーフコート）
・6対6（オールコート）
・ゴールキーパー練習法
・ゲーム

（メモ）

6対6の攻防では2人、3人のユニットによるプレーを統合するよう努めたかったが段階的には個人技、ユニットプレーの習塾がより望まれよう。今回の研修はそれらを確実なものにすることと走るハンドボールを目指したつもりである。

ゴールキーパーの練習法は北川勇喜氏が指導にあたり、様々な練習法を示され、各大学のゴールキーパーは真剣にとりくんだ。

（付）試合結果

男子は総当たりで、女子は日女体大、大阪体大、筑波大を除くチームの総当たりで行なった。

男子

| | |
|---|---|
| 大阪府立大学 | 6勝　1分 |
| 広島大学 | 5勝1敗1分 |
| 信州大学 | 5勝2敗1分 |
| 都留文科大学 | 5勝2敗1分 |
| 滋賀大学 | 3勝4敗1分 |
| 島根大学 | 3勝4敗1分 |
| 北海道教育大旭川 | 3勝5敗 |
| 鳥取大学 | 1勝7敗 |
| 拓殖大学 | 6敗 |

女子

| | |
|---|---|
| 筑波大学 | 6勝1敗1分 |
| 日本女子体育大学 | 5勝2敗1分 |
| 大阪体育大学 | 3勝5敗 |
| 都留文科大学 | 4勝2敗2分 |
| 奈良女子大学 | 4勝2敗2分 |
| 愛知学院大学 | 4勝2敗1分 |
| 和歌山大学 | 4勝2敗 |
| 東海大・拓殖大混 | 2戦4敗1分 |
| 文教大学 | 2勝5敗1分 |
| 滋賀大学 | 3敗5分 |
| 北海道教育大旭川 | 6敗2分 |

・講義内容（要約）

〝ハンドボール指導者に望むこと〟

講師　的場益雄氏

「ハンドボールの特色と普及」をポイントに話題を歴史的に展開された―

昭和12年3月に日本における最初のハンドボール（11人制）の試合が他の競技の選手を中心に行われた"他の競技では各々の競技団体がバックとなり普及に貢献してきたが、ハンドボールではそのための資金がなくハンドボールの良さをアピールして普及に努めねばならなかった。そこで・文部省主催という名で講習会を開き人を集める・協会で講習会を開いてもらう・各県で講習会を開くなど方策を試みたが人材、資金不足などから行きづまることもあった。

ところでハンドボールのアピールすべき良い点とはなんだろう。

・走・跳・投―基礎体力の養成に最も適している。しかしこれがハンドボールを始める直接動機とはならないが。
・へたならへたなりに最初からボールゲームとして楽しめ、またうまくなってゆけば技術に深さがあるので、やればやるほど楽しい。
・ハンドボールはスピーディである。
・ハンドボールのおもしろさの中には人間の欲求であるスリルや力強さというものが含まれている。

要はハンドボールを自分白身で体験してみて、おもしろいと思うことが普及の根本である。

また普及の別の手段として

・日本チームが世界のひのき舞台に立つこと
・外国のチームを日本に呼ぶことなどがあげられよう。

ここで指導者に望みたいのは目標なき普及に力を入れて盲目的になっていたのではいけないということである。現在の状態に疑問を感じるが、選手、コーチ等が目標を持ってハンドボールに接してほしいと思う。

スポーツで人間をつくる。すなわちハンドボールをやることによって立派な人間をつくる。そのなかで学生なら学生の路線を見い出してほしい――

〝学校体育としてのハンドボールの指導〟

講師　高橋健雄氏

競技におけるハンドボールと、学校体育におけるハンドボールとは、経験の有無やルールに対する考え方からも区別が必要である。すなわち学校体育では〝ルールを守ることを重視していかなければならない。

小学校ではポートボールを習うが、これからハンドボールへの移行は容易である。なぜならハンドボールは身体の自然行動がそのままのスポーツであるからだ。（たとえば3歩の教え方はハードリングの3歩と一致し、歩数に関しては無意識である）小学校では、ポートボールからハンドボールへ。

中学校ではそれに加えて、バレー・サッカー・ラグビー・バスケット。高等学校ではそれらの球技から、高度なハンドボールへと移行することは可能である。というの

はハンドボールの特徴がスピーディで走・跳・投（人間の基本的な運動能力）、持久力であり、自然発達的傾向があるからである。ハンドボールをやった人は他の運動への移行が容易であり、その能力を応用しうる。そのためにも小学校でハンドボールをとり入れることは、教材としての効果があり、体育指導の目的に合致しているといえる。まず小学校で与えるのは初期のハンドボールの指導であって、生徒のニードがあればより高度なハンドボールへと移行（分析的な段階指導）をしていけばいいのである。



盛況だった研修会の一こま（提供・普及指導部）

〝参加者と講師とのQ&A〟

Q1：少人数での練習法について

A：（大西）ハンドボールは1対1に始まって1対1に終る。だから1対1の要素、ポジション、キーパーとの兼合等を考えて1人1人が練習し自信をつけチームに結びつけてゆく。

Q2：初心者の練習法

A：（北川）西独では1対1を遊戯的に行なっており、その中でフェイント ドリブル シュートなど1人1人の技術が高まっている1人の時はボディコントロール（フェイントなど）、ボールコントロール（ドリブル、ボールセンスなど）を高める練習をする。日本ではパス系統から入るがこれは誤っておりドリブルから入る方がよい。

Q3：シュート・フォームを直すことができるか

A：（家村）一番無駄のないパスを行ない、普段のパス練習の時から肘、打点等を意識すること。またシュート練習でまわりの人にアドバイスしてもらうとよい。

Q4：フローターの攻撃法

A：（家村）例えばディフェンスがサイドにパスが送られたことによりサイドオフェンスに目が向くその時にフローターは走りこんで打てる。かさ型の動きとバックステップを練習するとよい。

Q5：クロスプレーのタイミングについて

A：（氷海）相手のチェンジミスをねらい2対2の関係をくずし、オープンになったところをつくプレーであるから、2人の動作ができるだけ同時間帯であり、2人共が動きを頭に入れてきるのかパスをもらうのかの判断が必要である2人の〝あわせ〟が重要になる。

Q6：ポストの効果的な動き

A：（氷海）根本は死角をねらうのであり、次のことを状況によって使いわける。①自分がシューターになる動き　②味方プレーヤに対して効果的、協力的な動き⑧フォローの役割り④動きの流れの中でディフェンスの動きを制約する動き――

Q7：ダブルポストの守り方

A：（氷海）ポストはゲーム中あまりボールを持たないので①ボールがない時のポストの位置の把握・オフェンスーディフェンスの位置関係のかけひき（例えば1・5から0・6への切りかえ）が必要である。またQ6の4つの動きの逆をつく。

Q8：分習法とゲームの結びつきについて

A：（土井）チームとしての攻撃法と分習法が一致していることが大切であり、問題意識を持ちながらゲーム場面を設定して行なう。また分習法ーゲームー分習法ーゲームと試行錯誤的に高めていく。分習法は型にとらわれやすいので注意して行なうこと。

Q9：技術修得のコツ

A：（平岡）常に初心を忘れず、うまくなりたいという欲求を持つことである。問題意識を持ち常日頃の練習が必要である。それは試行錯誤のくり返しでもいい。その中でやりたいことがあればそれに応じた練習法を利用し、またアドバイスを信じることである。

Q10：体力問題について

A：（阿部）統計的にみると一試合でダッシュで走る距離は男子で4〜5キロメートル、女子で3キロメートル等々、選手は有酸素的機能と無酸素的機能の両面を鍛え

る必要性がある。またボールスピードと筋力の相関は0.6であるが、肘や手首だけとの相関は無いと言え、総合筋力として相関は出てくる。故に部分的なトレーニングではなく、オールラウンドなトレーニングが望まれ、またそれは長期的（6～8週間）に行なわなければならない。さらに筋力トレーニングだけでなく、ボールスピードと遠投力とは相関が大きいので遠投を大いに行なうとよいだろう。

〃クリーンハンドボール
について〃

講師　大西武三氏

ハンドボールは日本に紹介されるやいち早く学校体育の中にとり入れられ、またスポーツとしては東京オリンピック（昭和15年の予定であったが中止）の誘致を契機として発展してきたものである。

ハンドボールの特性上、身体接触が数多く起るのは当然のことであるが、今ハンドボールに対して第3者が憂慮すべき問題として悪質な身体接触があげられている。今後のハンドボールの発展に対しては考えるべき問題であり、我々ハンドボーラーとしてはルールに基いたクリーンなハンドボールを行ない、今後の発展に寄与すべきである。

。今回の研修会で特に考慮した点

1　ゲームと基礎技術の関係を明確にし、毎日の練習も分習による基礎の練習とそれを生かすべきゲームの練習とを毎回とりいれるようにした。

2　グルーピングを能力別にした

本当はチームの枠をはずし、経験年数や能力を考慮して等質のグループにする予定であったが毎回ゲームを行なうため、能力の似かよったチームを一グループにして指導した。

3　全チームとリーグ戦

強い弱いにかかわらず全部のチームとリーグ戦を行なえるようにした。（女子の一部に変更）。

4　傷害保険をかけた。

事故やケガはつきものであるので参加者全員に傷害保険をかけた。

。参加者の反省からみた今回の研修会の評価

参加者全員の感想文を整理し、良かった点と問題点などをまとめて、それらを来年度へ向けての資料としたい。

（良かった点）

・初心者にとって基礎から教えてもらったのはよかった。
・基礎的なことの大切さがよくわかってきた。
・ハンドボールのおもしろさがわかってきた。
・練習に取り組む姿勢がわかってきた。（問題意識他）
・自分の可能性を引き出される喜びを感じた。
・普段できない6対6の練習ができ、とてもためになった。
・指導者がいなくて練習方法がわからなかったが、わかってきた。
・マンネリ化した練習に活路が見いだされた。
・技術面で学ぶことが多かった。
・1ステップ毎の毎回のゲームがよかった。
・キーパーの練習法に目を見はらされた。今後に役立てたい。
・練習方法に独創性があってよかった。
・効果的なプログラムだった。
・審判法が身についてきた。
・他の大学に学んだり、刺激されてよかった。
・講義が有意義だった。特に講師とのQ&Aがよかった。
・講師がていねいに教えてくれてよくわかった。
・能力別のチーム分けがよかった
・映画で世界の力を見れてよかった。
・宿泊施設がゆったりしてよかった。
・施設・設備がすばらしかった。
・練習場が代々木より近くてよかった。
・ハンドボールをやることに誇りを覚えた。
・この研修をこれからも続けて欲しい。
・普及に情熱を持ち始めた学生が大変多い。

その他この研修会、講師への感謝の声が多かった。

（問題点）

・指導内容が表面的になりすぎた
・基本的なことばかりでなく、セット的なものをやって欲しかった
・講義に技術論があった方がいい
・全部の映画、講師の解説があった方がいい。
・個別指導の時間をもっととって欲しかった。
・講師の模範技をもっと見たかった。
・いろいろな指導者に助言して欲しかった。
・ゲーム終了毎に指導者の助言をして欲しかった。
・チーム全体の批評、これからの指針などを教えて欲しかった。
・各々の者が目標を持って参加しているのだから、各自希望をとってグループ分けして欲しかった。
・自分で選択できるグルーピングをして欲しい。
・途中でグループを再編成してもよかった。
・まったくの初心者だけのグループ分けが欲しかった。
・ハンドボール歴だけでなく、チームの悩みや習得したいこと別のグループがあればよかった。
・指導者グループが欲しかった。
・人数が多過ぎて技術を習得するまでの時間的余裕がなかった。
・日程が短かすぎた。
・交通事情から盆前の開催はできないか。
・会場が不便な地にある。
・東京周辺だけでなく関西地方でもやって欲しい。
・大学が広すぎて、迷ったり移動に時間がかかり過ぎるため昼食をゆっくり食べられなかった。
・入浴時間が短かすぎた。
・宿泊は個室で落ちついたが、大学毎でミーティングをやるのに支障をきたした。
・グランドのそばにトイレがなかった。
・連絡事項の徹底をして欲しい。

。終わりに

この研修を終え、学生諸君の文章を読んでいると何か熱いものがこちらに伝わってくるのである。多くの参加者が示してくれたハンドボールへの愛着と普及に対する意欲の芽生えがそうさせるのだろう。

今後より一層この研修会を充実したものに皆で育てていきたいと思う。

この研修会のために御尽力下さったハンドボール指導者の方々、筑波大学の学生諸君に感謝しつつ報告を終わりたい。

◇「日本協会専門部だより」は記事ふくそうのため、今月号は休載しました。

報告④

# I H F・レフェリーとトレーナーシンポジューム

安藤純光
（日本協会常務理事）

最近国内の各大会でも明日の対戦チームを、あるいは好ゲームをVideo—Rekorder に収録している光影をしばしば見る。すでにVideo を活用しているチームあるいはチームのリーダーにとってはここに報告する「Video—Rekorder のハンドボールへの導入」と題する講演にあるようなことはマスターされているのではないかと思うが、なお何かの参考になればと思うので以下 Heinz Suter 氏の講演を報告する。

## 1、教授および方法についての展望

Video—Recrder(VR) をハンドボール競技に導入し使用することの意味と目的は、トレーニングの作用効果を改善し、競技に対して備えるプレイヤーたちの力となりさらに自分のチームならびに相手のチームについて最善の情知識を得てそれに対応する準備をするということにある。

主要なことは、次の三つの機能である。

スポーツ運動を習得するに際して、視聴覚的情報の媒介を通じて運動表象（メンタルピクチュアー）の改善をしていくことである。すなわち、Videoband におさめられた連続した映像によって身体運動の習得過程を助けるということである。

1、指導映画機能（観察的トレーニング）

その場合観察の効果の大小を左右するものは、その運動の動きの流れの質の良否であり、また摂影の質である。

2、矯正機能（メンタルトレーニングへの寄与として）

他のいかなる方法も運動の連続を直ちに再生することはできないし、また他のいかなる方法も現実をこれほど身近にひきよせることはできない。何回でも繰り返したり、動きの速度をおそくすることができるので運動過程の矯正を個々に、そして個別化して徹に入り細にわたって克明に明確にすることができるのである。また一人一人のプレイヤーの技術の矯正においても、あるいはまたいく人かのグループ、そしてチーム全体の戦術的な面についてもこれだけ明確に示すものは他にはない。

・習得の心構を高めること

経験の上からいって、実際そのものの運動の連続を見せられることによってプレーヤーの注意力は高まり関心は深まり、またプレーヤーの注意力は高まり、プレーヤー各自の課題、役割に対する責任意識が強まり、ひいてはハンドボールというスポーツに対して、またコーチに対して協同連帯的なぴったりした心構えが深まることになる。

3、動機づけの機能

われわれはハンドボール競技において、これらの機能を次のように利用している。

・同時的情報伝達

Video—Rekorder は、競技の経過をどこでも好きな場所で、見たい人々に見せることができる。

・「即時情報は「feedback」とも云われている。

映画撮影の場合には必ず現像するための時間が必要であるがVideo技術は、そのような時間をかけることなく運動の過程を即刻再現することができる。このように実際の競技の過程とその再現の時間的関係（即時性）によって、欠点をよりよく認識することができるので結果的には、より一そう大きな学習効果をあげることになるのである。

・記録的な情報

まず第一にこの記録的な情報を得るために、一つの競技またはトレーニングの経過の記録をとることができる。はじめに記録的な情報（後で見ることができるもの）と名づけたように、後で自分のすきなときにこの記録を再現することができるこれによって後で適切なそして重要な運動過程をとり出して示し得るので指導用として模範技術を教示するためにはとくに適している。

トレーニング

。個人技術

ゴールキーパー＝ゴールでのプレイ、動き方

防禦プレーヤー＝相手のプレーヤーに対する体の構え方、足の位置、体勢。

攻撃プレーヤー＝相手に対する行動の仕方、体勢、ゴールシュートなど。

。個人、グループおよびチームの戦術。

競技の記録（Video）に基いて重点的な課題、よい動き、悪い動きを実地に証明し指摘する。

競技の準備／競技

。自分のチームのプレイ

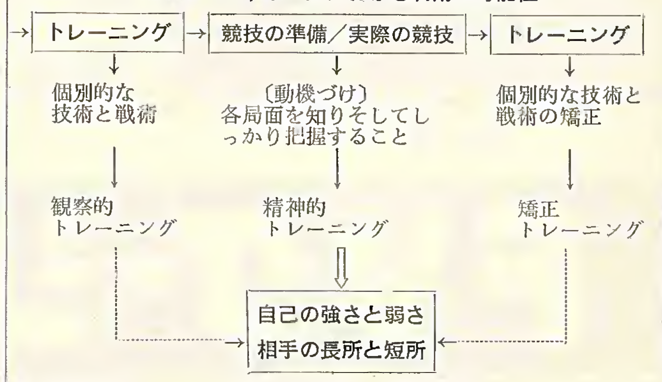
確認＝よい点と悪い点の指摘。

改善すべきこと＝個々のプレーヤー、グループおよびチームの矯正。

戦術的指示＝攻撃について、防禦について。

動機づけ＝よい動き方を示す。

。相手チームのプレー



長所と短所
防禦と攻撃＝グループ、チームの動き。
個々のプレーヤー＝技術的、戦術的な動き。
フリースローのヴァリエーション。
ペナルティースローのヴァリエーション。

［順応トーニングと矯正トレーニング］

。自分のもっている可能性を、予想しうる相手の長所と短所に対応させる。

Ⅱ　器材に対する技術的諸要求

トレーニングおよび競技において使用する Video は、どんな機能をもっていなければならないか

〔レコーダー〕
・いく通りにもスピードを変えて、スローモーションで撮ることができるもの。
・スチール、あるいは一コマ一コマでの扱いができること。
・扱い方が単純なもの（1人の操作）
・カセット方式（巻取り式でない）。
・電源を電燈線のコンセントからとらない（バッテリーによる操作）。
・軽量でポータブルなもの（可動性）。
・バンドカウンターつきであること。
・同時または後で録音するために調節できるマイクがついているもの。
〔解説のために〕。
・カラーの性能は必要ではない

〔カメラ〕
・内蔵されたファインダー装置（撮影の調整）のあるもの。
・カメラの撮影操作装置（レコーダにではない）。
・充分な焦点距離(12.5～75㎜)をもったズームレンズ。
・三脚に取りつけるためのネジ込み装置のついているもの。

〔モニター〕
・ポータブル
・白黒（カラーが出る必要はない）でよい。
・画面は最低30㎝大きさが必要である。
・受信器／モニター（＝Video の再生とともに普通のテレビ番組の受信も可能でなければならない）。
・電源を電燈線のコンセントからとらなくてよい。バッテリー操作のポータブルモニターは、実現されている。だが実際には需要が少ない。

〔電燈線のコンセント〕
Videorekorderへの電源供給装置と同時にバッテリーの充電器用の装置が必要である。
・電燈線のコンセントに、調節器をとりつけることによって、市販されているどのテレビ受信器でも再生することができる。

〔バッテリー〕
・作動時間が最低30分あること
・充電することができるもの。

〔カセット〕
・コンパクトであること。
・継続撮影時間が最低20分、30分であればさらによい。

〔カメラ台〕
・三脚
・高さが調節でき、旋回できるもの。
・しっかりとめてないカメラが突然倒れおちないようにするために、スプリング式安全装置がついていること。

〔器材車〕
・充分に大きな車輪、とくに野外で使用するためには空気タイヤつきのもの。
・電線からとった電流の配電器つきのもの。
・電線の巻取り装置のついているもの。

Ⅲ　録画上の諸前提

諸装置の注意深い専門的な取り扱い。技術的な理解は経験によって得られる。

〔録画〕
何を撮ろうとするのか？　何を何回、どのくらい長く撮りたいのか？　何を普通のスピードで、何をスローモーションで撮るか？どこで、その画面について何をしゃべるか？
ハンドボールで必ず撮られるのは
・個人の技術の個々の撮影（ゴールキーパー）
・グループの戦術撮影。
・チームの戦術のためにチーム全体の動きを撮影＝競技の前（後）半。

〔撮影位置〕
・個人を撮影するためには、最低10ｍの距離をとるこが必要である。
・グループおよびチームの撮影には、高い位置から撮影すること
・ズームレンズは、ゆっくり操作し、やたらに操作すべきではない。またカメラを急に振ってはならない。画面がとんで見にくくなるから。
・三脚を使った効果は必ずある基本となる調子が一貫して持続するようにすること。前後の関連を失なわぬように撮影すること。
・テープのカウンターを必ず一緒にまわしておくこと。後でとくに使いたいと思った「すぐれた画面のカウンターの目盛を記録しておくこと

〔光線〕
普通は体育館内でも日中の光線で充分である。野外では映像がとぶようなぎらつきの起こらないように注意して、カメラの位置をえらぶことが必要である。その他は普通の写真を撮るのと（逆光その他も）同じ注意をまもればよい。

〔編集〕
編集は時間のかかる仕事である撮影したすべてをプレーヤーたちに見せるわけにはいかない。コーチは撮影したものを見て、プレーヤーたちに何を見せるか決断を下すべきである。

〔編集までの処理過程〕
(1)画面に一連番号をつける。
(2)画面についての記述をする。
(3)カウンターの目盛をメモする
その他の方法
・器械を二台使って、最も重要な部分をどちらか一方への収録する。
・または、テープの必要な部分をつなぎ合わせる。

〔プレーヤーたちに何を見せるか〕
1.コーチが必要な画面を選ぶ。
2.その代り典型的な場面を見せてやるようにする。
3.その場面を見せて、それについて批評を与える。
4.その場面を見せて話し合い、トレーニングする。

（この項おわり）

## 各地の記録

### 海上自衛隊、白星重ねる

▼京都社会人ハンドボールリーグ

▽一部

京都教員 30―8 塔南ク
海上自衛隊 12―0 葵ク
平安送球会 11―10 塔南ク
嵯峨野ク 18―14 東山ク
海上自衛隊 18―14 塔南ク
東山ク 15―12 平安送球会
海上自衛隊 18―10 嵯峨野ク

▽二部

伏見クB 24―13 三菱電機
洛東ク 12―9 シルビア
シルビア 12―12 大谷ク
洛東ク 12―10 大阪ガス
大谷ク 12―0 篁会
伏見クB 12―0 広善工務店

### 桜丘会が5戦全勝

▼第28回クラブ対抗愛知ハンドボールリーグ（七月・名古屋）

▽一部

桜丘会 15―14 愛知教員
愛知教員 20―6 大同ク
愛教ク 17―13 愛知教員
愛知教員 19―11 中京ク
愛知教員 25―15 桜田ク
桜丘会 25―10 大同ク
桜丘会 15―10 愛教ク
桜丘会 16―14 中京ク
桜丘会 19―11 桜田ク
愛教ク 17―10 大同ク
中京ク 17―12 大同ク
大同ク 22―12 桜田ク
中京ク 15―10 愛教ク
愛教ク 22―10 桜田ク
中京ク 22―12 桜田ク

【順位】①桜丘会②愛知教員③愛教ク④中京ク⑤大同ク⑥桜田ク

▽二部

大江ク 23―12 南山ク
南山ク 16―15 名南ク
南山ク 20―9 上野ク
東杏会 18―14 南山ク
半田ク 16―12 南山ク
名南ク 20―15 大江ク
上野ク 15―11 大江ク
東杏会 17―17 大江ク
半田ク 9―4 大江ク
名南ク 17―12 上野ク
半田ク 18―8 名南ク
上野ク 19―10 東杏会
半田ク 16―9 上野ク
半田ク 11―10 東杏会

【順位】①半田ク②東杏会③南山ク④上野ク⑤大江ク⑥名南ク

▽三部

東山ク 24―7 市工ク
豊通ク 20―16 市工ク
市工ク 15―7 ウィナー
市工ク 27―6 若宮ク
豊通ク 17―14 春日井ク
春日井ク 30―11 ウィナー
春日井ク 22―18 若宮ク
豊通ク 19―17 東山ク
東山ク 21―9 ウィナー
豊通ク 18―10 ウィナー
若宮ク 25―17 豊通ク
ウィナー 16―14 若宮ク

【順位】①豊通ク②東山ク③市工ク④ウィナー⑤春日井ク⑥若宮ク

▽四部

東中ク 14―12 愛商ク
大同研究ク 29―17 東中ク
東中ク 18―14 横須賀ク
東中ク 15―14 北斗ク
富田ク 19―16 東中ク
愛商ク 16―10 大同研究ク
横須賀ク 14―13 愛商ク
北斗ク 14―14 愛商ク
愛商ク 14―10 富田ク
横須賀ク 15―12 大同研究ク
大同研究ク 14―13 北斗ク
大同研究ク 17―16 富田ク
横須賀ク 18―13 北斗ク
富田ク 19―10 横須賀ク
北斗ク 14―13 富田ク

【順位】①大同研究ク②横須賀ク③東中ク④愛商ク⑤富田ク⑥北斗ク

▽五部

大同高蔵ク 19―13 蒼穹会
新日鉄ク 20―11 蒼穹会
大口ク 12―11 蒼穹会
大同高蔵ク 15―15 知多ク
新日鉄ク 18―11 知多ク
大口ク 13―10 新日鉄ク
知多ク 20―13 大口ク
大同高蔵ク 14―11 新日鉄ク
大同高蔵ク 18―5 大口ク

【順位】①大同高蔵ク②知多ク③大口ク④新日鉄ク⑤蒼穹会

### 1部は自衛隊勝田

▼第2回茨城県一般ハンドボールリーグ（九月・笠間体育館ほか）

▽一部

原研 21―12 鉾田ク
自衛隊勝田 29―15 笠間ク
茨大 14―13 鉾田ク
茨大 21―8 笠間ク
自衛隊勝田 31―11 日製日立
茨大 29―8 日製日立
茨大 19―14 原研
自衛隊勝田 16―9 鉾田ク
笠間ク 18―10 日製日立
自衛隊勝田 16―11 茨大
原研 26―7 日製日立
笠間ク 13―6 鉾田ク
鉾田ク 21―13 日製日立
笠間ク 18―15 原研
自衛隊勝田 25―10 原研

【順位】①自衛隊勝田②茨大③笠間クラブ④原研⑤鉾田クラブ⑥日製日立

▽二部(A)

土浦三高OB 17―15 阿見ク
土浦三高OB 12―0 常陽銀行
自衛隊古河 23―11 阿見ク
自衛隊古河 17―17 常陽銀行
阿見ク 18―8 常陽銀行
土浦三高OB 20―16 自衛隊古河

▽同(B)

茨苑ク 25―13 筑波会
千代田ク 11―7 竜ケ崎ク
茨苑ク 29―14 千代田ク
筑波会 23―12 竜ケ崎ク
筑波会 12―9 千代田ク
茨苑ク 27―11 竜ケ崎ク

▽順位戦

竜ケ崎ク 18―15 常陽銀行
千代田ク 12―0 阿見ク
自衛隊古河 16―11 筑波会
茨苑ク 26―17 土浦三高OB

【順位】①茨苑クラブ②土浦三高OB③自衛隊古河④筑波会⑤千代田クラブ⑥阿見クラブ⑦竜ケ崎クラブ⑧常陽銀行

### いわきクラブ勝つ

▼福島県選手権（八月・いわき市好間高校）

いわきク 22―11 小野ク
いわきク 22―4 東北歯大
小野ク 19―10 東北歯大

いわきクラブ優勝

### 女子は米子南商

▼昭和54年度鳥取県高校新人戦（十月・倉吉工業高校）

▽男子準々決勝

倉吉工 16―9 倉吉産
倉吉東 8―6 米子北

▽同準決勝

米子東 27―8 米子工専

▽同決勝

境港工 27（16―7, 11―10）17 境

【順位】①境港工②境③米子東④米子工専⑤倉吉東⑥米子北⑦倉吉工⑧倉吉産

▽女子リーグ

倉吉西 13―3 米子東

米子北 14—5 米子東
米子南商 21—6 米子東
倉吉産 7—7 米子東
倉吉西 4—3 米子北
米子南商 7—6 倉吉西
倉吉西 10—8 倉吉産
米子南商 10—1 米子北
倉吉産 4—4 米子北
米子南商 13—4 倉吉産
【順位】①米子南商②倉吉西③倉吉産④倉吉北⑤米子北

## 三重教員、本田技研破る

**▼三重県総合選手権（九月・津）**

▽男子準々決勝
三重教員 23—17 本田技研鈴鹿
尾鷲ク 30—13 四日市工高B
鵜の森クB 20—13 ガラクトーズ
尾鷲クB 19—16 桑名西高B

▽同準決勝
三重教員 31—25 尾鷲ク
鵜の森クB 29—13 尾鷲クB

▽同決勝
三重教員 23（11—7, 12—9）16 鵜ノ森クB

▽女子準々決勝
津女子高 10—3 尾鷲高
尾鷲ク 棄権 ジャスコ
暁高 8—5 むつみケ丘ク
津女子高B 16—10 暁高OB

▽同準決勝
津女子高 15—2 尾鷲ク
暁高 6（分）6 津女子高B
7MTコンテスト2—1で暁高の勝ち

▽同決勝
暁高 5（3—0, 2—0）0 津女子高

## 神戸製鋼、川重らおさえる

**▼第4回兵庫県実業団リーグ（神戸）＝男子のみ**

川崎重工 20—13 鐘淵化学
神戸製鋼 棄権 ダイハツ
神戸製鋼 37—8 鐘淵化学
ダイハツ 23—16 神戸市役所
鐘淵化学 棄権 ダイハツ
川崎重工 21—17 ダイハツ
神戸製鋼 40—13 神戸市役所
鐘淵化学 17（分）17 神戸市役所
川崎重工 28—12 神戸市役所
神戸製鋼 33—15 川崎重工
【順位】①神戸製鋼4戦全勝②川崎重工3勝1敗③鐘淵化学④兵庫ダイハツ⑤神戸市役所

## 浦添、那覇工破り優勝

**▼第16回沖縄県高校男子選手権（九月・那覇）**

▽男子準々決勝
興南 20—18 首里
沖縄工 22—21 北山
那覇工 20—12 大平
浦添 33—8 名護

▽同準決勝
那覇工 18—14 興南
浦添 17—8 沖縄工

▽同決勝
浦添 13（7—6, 6—5）11 那覇工

## 中学大会記録

**▼富山県中学選手権（七月・富山市立呉羽中）**

▽男子準決勝
氷見西部 14—4 杉原中
氷見北部 10—8 呉羽中

▽同決勝
氷見北部 12（6—4, 6—5）9 氷見西部

▽女子準決勝
般若中 15—6 富西部中
国吉中 10—9 氷見北部

▽同決勝
般若中 13（5—2, 8—3）5 国吉中

**▼東海地区中学ハンドボール大会**

▽男子準決勝
汐路 19—7 加納
南稜 20—8 岳陽

▽同決勝
南稜 9（3—3, 6—5）8 汐路

▽女子準決勝
汐路 16—6 加納
菊井 16—7 東員

▽同決勝
汐路 11（7—5, 4—1）6 菊井

**▼第33回愛知県中学総合体育大会**

▽男子準決勝
南稜 13—9 御幸山
汐路 18—6 八王子

▽同決勝
汐路 17（10—4, 7—7）11 南稜

▽女子準決勝
菊井 8—7 春日井中部
汐路 8—2 六ッ美

▽同決勝
汐路 14（7—4, 7—6）10 菊井

**▼第29回茨城県総合ハンドボール選手権＜中学の部＞（八月）**

▽男子準決勝
茎崎中 32—2 結城中
伊奈中 15—14 出島北中

▽同決勝
茎崎中 18—13 伊奈中

▽女子準決勝
伊奈中 16—4 石岡中
麻生中 16—7 岩井南中

▽同決勝
伊奈中 11—5 麻生中

**▼茨城県関東中学校県予選（七月石岡中）**

▽男子準々決勝
茎崎 24—6 古河一
伊奈 18—15 土浦一
出島北 21—15 千代田
鬼怒 19—14 麻生一

▽同準決勝
茎崎 94—6 伊奈
鬼怒 19—14 出島北

▽同決勝
茎崎 20（9—5, 11—8）13 鬼怒

▽女子準々決勝
麻生 10—5 岩井
玉造 11—1 八千代一
岩井南 30—7 出島北
伊奈 23—2 土浦一

▽同準決勝
玉造 9—8 麻生
伊奈 14—5 岩井南

▽同決勝
伊奈 15（6—0, 9—1）1 玉造

**▼山口県中学予選会（七月・岐陽中学校）**

▽男子準々決勝
下松 28—5 桂島
住吉 23—9 日新
岩国 11—3 岐陽
通津 12—10 末武

▽同準決勝
下松 17—8 住吉
通津 10—8 岸国

▽同決勝
下松 20（10—4, 10—8）12 通津

▽女子準決勝
岐陽 8—7 住吉
岩国 8—7 末武

▽同決勝
岐陽 17（6—8, 9—7, 2—0, 0—1）16 岩国

誌面の都合でしばらく休載していた「中学大会記録」を復活いたします。ご寄稿下さい。（編集部）

# 興奮再現。

## 持ち運んで楽しむか

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W（2.1W＋2.1W、EIAJ/DC）のパワー。12cmウーハー（中低音域用）と3.5cmツイーター（高音域用）採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●（クロム／ノーマル）テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき（別売り APS-80）使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子（R用、L用各1個）つき




## ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V（単1×6） AC：100V 50/60Hz カーアダプター（別売りD-70） ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12（cm） ●重さ 5.0kg（乾電池含む）

システム パディスコ



## 組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー（APS-80）の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー（HT-320）を接続すればレコード音楽も楽しめます。（MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要）

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800（レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です）

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。
★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

HITACHI

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12（日立愛宕別館）TEL（03）503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一八〇号
昭和四十年六月十[illegible]第三種郵便物認可
昭和五四年十月二十五日印刷
昭和五四年十一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
[illegible]都渋谷区神南一ー[illegible]ー[illegible] 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円（年間購読料三千三百円）